

IV 飼 料 作 物

1. アカクローバ

- (1) **アレス**（系統名 SW Ares）2007年
登録番号：（北海道）クローバ類北海道第9号

セールスポイント

チモシーに対する競合力が穏やかで、永続性に優れる品種である。

来歴 スウェーデンのSvalof weibull AB社が育成し、2006年にOECD登録された。道内には雪印種苗株式会社が導入し、2004年から2006年まで各種の試験を行い、2007年に北海道優良品種となった。

特性概要

1. 早晩生：開花始期は「クラノ」より遅く、晩生に属する。
2. 混播適性：マメ科率30～40%を概ね維持し、年次間

- および番草間の変動が「クラノ」より小さく、優れる。
3. 競合力：「クラノ」より穏やかである。
 4. 越冬性：「クラノ」並である。
 5. 収量性：単播では「クラノ」並である。混播では、チモシーの収量が「クラノ」よりやや多く、混播区全体の収量は「クラノ」並かやや多い。
 6. 永続性：3年目秋のクローバ被度が「クラノ」より高く、2年目に対する3年目の収量比が「クラノ」より高いことから、「クラノ」より優れる。
 7. 耐病性：菌核病には「クラノ」よりやや優れ、うどんこ病および葉枯性病害には「クラノ」並かやや劣る。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。チモシー中生品種との混播に適するが、チモシー早生品種との組み合わせでも利用できる。

	チモシー中生品種区乾物収量の「クラノ」比(%) ¹⁾				チモシー早生品種乾物収量の「クラノ」比(%) ¹⁾			
	チモシー	アカクローバ	全 体	マメ科率(%)	チモシー	アカクローバ	全 体	マメ科率(%)
ア レ ス	109	100	105	39.0	103	91	99	28.5
ク ラ ノ	(109.8)	(78.6)	(188.4)	41.2	(130.7)	(66.5)	(197.1)	31.5
ホ ク セ キ	97	127	110	48.0	83	118	95	40.4

注 試験年次は2004～2006年。チモシー中生品種の結果は5場所6試験地の平均値、早生品種の結果は根釧農試および北見農試の平均値。

2年目および3年目の合計収量の場所平均。収量は「クラノ」区は実数 (kg/a)。

参照 1) 北海道農政部編，平成19年普及奨励ならびに指導参考事項，24-26（2007）。

- (2) **リョクユウ**（系統名 北海13号）2010年
登録番号：（北海道）クローバ類北海道第10号
（農水省）アカクローバ農林6号
（種苗法）第22027号

セールスポイント

永続性に優れ、競合力の強いイネ科牧草との混播により安定したマメ科率を長期に維持できる。

来歴 1991年より北海道農業研究センターと根釧農試において、永続性と耐寒性の向上を目指して育成を開始した。途中、475個体を選抜し、1997年より2サイクル目の選抜を行った。2000年に、永続性に優れた8母系を選抜し、2002年から2005年まで北農研と根釧農試で生産力

予備検定試験を実施した。その結果、「北海13号」を付し、2005年より系統適応性等の各種試験に供試した。2010年に北海道優良品種となった。

特性概要

1. 早晩性：開花始期は「ナツユウ」と同日で、早生に属する。
2. 永続性：アカクローバ収量の後半（4，5年目）の前半（2，3年目）比が「ナツユウ」より高いことなどから、「ナツユウ」より優れる。
3. 混播適性：混播区での総乾物収量は、オーチャードグラス混播、チモシー極早生品種混播のいずれでも、「ナツユウ」区と同程度かやや多く、これらとの組み合わせによる混播適性は優れる。同様にみて、根釧に

限り、チモシー早生品種との混播適性も優れる。

4. 競合力：「ナツユウ」より強い。
5. 耐病性：菌核病および葉枯性病害の罹病程度は「ナツユウ」並である。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。競合力が強いいため、混播するイネ科牧草はオーチャードグラスおよびチモシー極早生品種を基本とする。チモシー早生品種との混播は、夏季冷涼湿潤な根釧地域等に限定し、播種量を抑える。それ以外の地域では再生の穏やかな品種を利用する。

イネ科混播草種・熟期別のアカクローバ収量 (kg/a) および後半収量の前半収量に対する割合									
	オーチャードグラス			チモシー極早生品種			チモシー早生品種		
	前 半	後 半	後/前(%)	前 半	後 半	後/前(%)	前 半	後 半	後/前(%)
リ ョ ク ユ ウ	84	25	34	78	29	38	96	63	65
ナ ツ ユ ウ	82	23	30	70	22	31	88	47	53

注 1) 試験年次は2005～2009年。
前半とは2, 3年目の、後半とは4, 5年目のアカクローバ収量。

参照 1) 北海道農政部編, 平成22年普及奨励ならびに指導参考事項, 24-25 (2010)。

(3) 北海17号 (系統名 北海17号) 2013年

登録番号：(北海道) アカクローバ北海道第11号
(農水省) アカクローバ農林 号
(種苗法) 第 号

セールスポイント

国内育成では初めての晩生品種である。チモシー中生品種との混播適性が高く、さらに耐寒性がやや優れる品種である。

来歴 北海道農業研究センターが1995年より育成を開始した。2000年から、「クラノ」との比較により母系選抜を行い、「北育20号」を開発した。2005年から4カ年、生産力予備検定試験を実施した。「北海17号」を付し、2009年より地域適応性等各種の試験を行った。2013年に北海道優良品種となった。

特性概要

1. 早晩性：開花始期は、「アレス」より6日遅く、晩生に属する。
2. 耐寒性：「アレス」より強い“やや強”である。
3. 混播適性：混播区での総乾物収量からみて、春播種では「アレス」区と同程度、夏播種では「アレス」区よりやや優れる。
4. 競合力：「アレス」並である。
5. 永続性：「アレス」と同等かやや優れる。
6. 耐病性：うどんこ病の罹病程度は「アレス」より小さく、菌核病およびモザイク病の罹病程度も「アレス」より小さい。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。チモシー中生品種との混播に利用する。

	開花始期 (1番草) (月日)	着花茎出現程度 (2番草) 1(極少)－9(極多)	最終年晩秋のRC被度 (%)	うどんこ病 1(極強)－9(極弱)
北 海 17 号	7月9日	2.2	23	1.9
ア レ ス	7月3日	2.4	24	2.8

注 試験年次は2009～2012年。
開花始期は北農研個体植えのデータ(2カ年平均)。着花茎出現程度は2, 3年目前試験平均。最終年晩秋の被度は北海道10試験の平均である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成25年普及奨励ならびに指導参考事項, 11-13 (2013)。

2. シロクローバ

- (1) リースリング（系統名 Riesling）2005年
登録番号：（北海道）クローバ類輸第8号

セールスポイント

永続性、クローバ率の安定性に優れる品種である。

来歴 Cebeco Seeds社（オランダ）が育成し、1996年にOECD登録された。道内にはホクレン農業協同組合連合会が導入した。2002年から2004年まで道内各地において各種の試験を行い、2005年に北海道優良品種となった。

特性概要

1. 形態特性：小葉長、草丈ともに「カリフォルニアラジノ」より小さく、タイプは「中葉型」である。

2. 越冬性：「カリフォルニアラジノ」並である。
3. 耐病性：クローバ菌核病の発生が少ない。
4. 収量性：2，3年目のオーチャードグラスとの合計年平均乾物収量、シロクローバ収量ともに「カリフォルニアラジノ」並である。
5. 競合力：クローバ被度は「カリフォルニアラジノ」よりやや低いが、混播時のクローバ率は同程度で、競合力は「カリフォルニアラジノ」並である。
6. 永続性：年次の経過に伴うクローバ率の減衰の程度が小さく、永続性は高い。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。「中葉型」であるが、「大葉型」と同様にオーチャードグラスとの混播に向く。

	クローバ率											
	根 釧		北農研		天 北		滝 川		北 見		畜 試	
	平均	3／2 年目比	平均	3／2 年目比	平均	3／2 年目比	平均	3／2 年目比	平均	3／2 年目比	平均	3／2 年目比
リースリング	43	76	39	73	22	67	29	70	21	100	11	51
カリフォルニアラジノ	45	81	40	58	18	73	24	20	27	58	11	23

注 クローバ率は、混播試験におけるシロクローバ収量割合（％）。
「平均」は、播種後2，3年目の平均値を示す。

参照 1）北海道農政部編，平成17年普及奨励ならびに指導参考事項，66-68（2005）。

- (2) コロボックル（系統名 北海1号）2011年
登録番号：（北海道）シロクローバ北海道第9号
（農水省）シロクローバ農林合6号
（種苗法）第22135号

セールスポイント

耐寒性に優れる。小葉型で競合力が穏やかなため、チモシー晩生品種およびメドウフェスクとの混播・短草利用条件で基幹草種を抑圧しない。

来歴 2001年から、耐寒性に優れる放牧用系統の育成を目指し、東北農試育成の「東北17～20号」を、根釧農試およびホクレン畜産技術研究所において評価した。特性の優れた「東北17号」を育種母材とし、北農研および根釧農試において越冬性他の特性に優れる計9個体を選抜した。これらを親クローンとし、交配して得た種子を「北海1号」とし、2006年から2008年まで系統適応性等の各種試験に供試した。また、2008年から2010年まで、北農研および根釧農試において、メドウフェスクとの混播

試験を実施した。2011年に北海道優良品種となった。

特性概要

1. 形態的特性：草丈、小葉長、小葉幅ともに小葉型の「タホラ」より小さく、小葉型の中でも最も小型である。小型のため、個体の拡がりもやや小さい。葉斑は「タホラ」より鮮明で、花色はやや赤みが強く、外観からの区別性は高い。
2. チモシー混播・放牧利用での特性(道東)：本品種は穏やかな競合力を持ち、2，3年目のシロクローバ被度は、「タホラ」区より低かった。チモシー収量は「タホラ」区比110％であった。チモシーとの混播・短草利用に適すると判断される。
3. メドウフェスク混播・放牧利用での特性(道東・根釧)：2，3年目のシロクローバ被度は、「タホラ」区より低かった。メドウフェスク収量は「タホラ」区と同程度であった。メドウフェスクとの混播・短草利用に適すると判断される。
4. 永続性：3年目の被度からみて、永続性は問題ない

ものと判断される。

5. 耐寒性：「タホラ」の「中」に対し、本品種は「強」である。菌核病罹病程度は「タホラ」と同等である。

栽培適地と奨励態度

チモシー，メドウフェスク基幹放牧地が利用される北海道東部地域に適する。チモシーまたはメドウフェスクと混播し，短草で利用する。既存の小葉型品種よりさらに小型であるため，採草利用，兼用利用，および長草丈での放牧利用には適さない。

	シロクローバ被度(%)						
	チモシーとの混播				メドウフェスクとの混播		
	根 釧	北 見	畜 試	平 均	北農研	根 釧	平 均
コ ロ ボ ッ ク ル	28.3	29.9	18.4	25.5	37.0	36.6	36.8
タ ホ ラ	68.9	38.7	29.7	45.7	47.8	61.5	54.7

注 シロクローバ被度は，混播試験におけるシロクローバ冠部被度（％），2，3年目平均。「平均」は，播種後2，3年目の平均値を示す。

参照 1）北海道農政部編，平成23年普及奨励ならびに指導参考事項，26-27（2011）。

3. アルファルファ

- (1) ケレス（系統名 SBA9801）2005年
登録番号：（北海道）アルファルファ北海道合第7号

セールスポイント

多収かつ耐病性に優れた早生品種である。

来歴 雪印種苗株式会社が合成品種法によって育成した品種である。2002年から「SBA9801」の系統名で各種の試験を行い，2005年に北海道優良品種となった。

特性概要

1. 早晚性：開花は「マキワカバ」とほぼ同時期の早生に属する。

2. 越冬性および早春の草勢：「マキワカバ」と同等である。
3. 収量性：3カ年合計で「マキワカバ」に比べ104%とやや多収である。
4. 倒伏程度：「マキワカバ」と同程度である。
5. 耐病性：バーティシリウム萎凋病に抵抗性である。そばかす病抵抗性は「マキワカバ」よりやや優れる。
6. オーチャードグラスまたはチモシーとの混播適性は，「マキワカバ」と大差はない。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。一般的な栽培技術が適用可能である。

	乾物収量 (%, kg/a)	越冬性 1 (極不良)－9 (極良)	倒伏程度 1 (極強)－9 (極弱)	そばかす病 1 (極強)－9 (極弱)
ケ レ ス	104	6.1	4.1	3.0
マ キ ワ カ バ	236.6	5.7	4.4	3.8

注 試験年次は2002～2004年（根釧のみ2003～2004）。データは6場所の平均値。乾物収量は3カ年の合計で，「マキワカバ」は実数，「ケレス」は「マキワカバ」比（％）。

参照 1）北海道農政部編，平成17年普及奨励ならびに指導参考事項，33-35（2005）。

4. チモシー

- (1) なつちから（系統名 北見25号）2010年
登録番号：（北海道）チモシー北海道第10号
（種苗法）第22052号

セールスポイント

年間収量が多く、耐倒伏性が「ノサップ」より強く、混播栽培に必要な競合力が「ノサップ」、「オーロラ」より優れる採草利用向けの早生品種である。

来歴 本品種は、北海道立北見農業試験場において、早生で収量性、耐倒伏性、混播適性および採種性に優れる品種の育成を目標として、57栄養系の後代と2品種を材料とした個体選抜試験に由来する28栄養系の交配による集団選抜法により育成した。2005年から「北見25号」の系統名で、ホクレン農業協同組合連合会との共同研究により、各種の検定試験を行い、2010年に優良品種となった。

特性概要

1. 出穂始は「ノサップ」と比べ同日か1日遅く、「オーロラ」と比べ1～2日遅く、早晚性は早生に属する。
2. 3か年（2～4年目）ならびに4か年（1～4年目）の合計乾物収量はいずれも、「ノサップ」、「オーロラ」より高い値を示し、年次別乾物収量は、1年目は「ノサップ」、「オーロラ」と同程度であるが、2年目以降は「ノサップ」、「オーロラ」より多収である。したがって、収量性は「ノサップ」、「オーロラ」より優れる。
3. 再生草勢が2番草において「ノサップ」、「オーロラ」より優れ、とくに2番草は多収である。
4. 越冬性は、「ノサップ」と同程度、「オーロラ」と比べ同程度かやや優れる。雪腐病に対する耐病性は「強」で「ノサップ」、「オーロラ」と同程度、耐寒性は「強」

で「ノサップ」と同程度で、「オーロラ」よりやや優れる。

5. 斑点病抵抗性は、「ノサップ」、「オーロラ」より優れる。すじ葉枯病抵抗性は、「ノサップ」、「オーロラ」と同程度である。
6. 耐倒伏性は、「オーロラ」よりやや劣るものの「ノサップ」より優れる。
7. アカクローバ混播条件下における3か年ならびに4か年の合計乾物収量は、チモシー収量、チモシーとアカクローバとの合計収量とも、「ノサップ」、「オーロラ」より多い。また、マメ科率は、「ノサップ」、「オーロラ」と比べ低く、より適正な値で推移する。したがって、混播栽培に必要な競合力は「ノサップ」、「オーロラ」より優れる。
8. 種子収量は、「ノサップ」、「オーロラ」より多く、採種性は「ノサップ」、「オーロラ」より優れる。
9. 飼料成分は番草別にみると、1番草と3番草は「ノサップ」と同程度であるが、2番草で「ノサップ」と比べ、繊維の割合がやや高くなる傾向にある。
10. 草丈は、1番草では「ノサップ」と同程度かやや高く、2番草は「ノサップ」、「オーロラ」より高く、3番草は「ノサップ」と同程度である。出穂程度は、1番草では「ノサップ」と同程度かやや低く、2番草は「ノサップ」より高く、「オーロラ」と同程度かやや高い。個体植条件下における1番草の茎数は「ノサップ」と比べやや少なく、草型はやや直立型に近い。

栽培適地と奨励態度

適応地域は、北海道全域とし、「ノサップ」と置き換える。年間2～3回の採草利用を主体とする。耐倒伏性、混播適性は良好であるが、1番草は生育状況を観察し、収穫時期など適切な刈取り管理に努める。

試験場所名	品種名	出穂始 (月・日)	番草別乾物収量			年次別合計乾物収量				試験年次
			1番草	2番草	3番草	2年目	3年目	4年目	3か年合計	
北見農試	なつちから	6.12	97	116	98	101	102	101	101	2006～2009
	ノサップ	6.12	50.8	18.0	12.0	89.1	72.4	80.8	242.3	
	オーロラ	6.11	96	103	96	89	103	101	97	
上川農試 天北支場	なつちから	6.17	105	125	90	107	109	108	108	
	ノサップ	6.17	49.9	19.1	9.3	81.1	75.3	78.4	234.8	
	オーロラ	6.16	104	114	90	104	106	105	105	
根釧農試	なつちから	6.19	100	122	—	103	108	111	107	
	ノサップ	6.19	62.1	29.7	—	102.5	93.7	79.4	275.5	
	オーロラ	6.18	94	108	—	90	102	104	98	
畜試	なつちから	6.15	104	138	106	100	112	121	111	

試験場所名	品種名	出穂始 (月・日)	番草別乾物収量			年次別合計乾物収量				試験年次
			1 番草	2 番草	3 番草	2 年目	3 年目	4 年目	3 年合計	
畜 試	ノ サ ッ プ	6.15	56.1	16.8	18.0	91.6	94.7	86.0	272.3	2006～2009
	オ ー ロ ラ	6.14	102	108	97	93	104	111	102	
北 農 研 セ ン タ ー	なつちから	6.10	98	134	92	104	97	100	100	
	ノ サ ッ プ	6. 8	71.2	9.1	15.9	107.8	93.3	87.4	288.4	
	オ ー ロ ラ	6. 9	97	107	101	103	98	94	99	
ホ ク レ ン (音 更)	なつちから	6.14	110	117	97	110	106	—	108	
	ノ サ ッ プ	6.14	64.1	25.6	27.1	137.9	95.5	—	233.4	
	オ ー ロ ラ	6.13	102	104	94	97	105	—	100	
全 場 所 平 均	なつちから	6.15	101	125	98	103	106	108	105	
	ノ サ ッ プ	6.14	58.0	18.5	13.8	94.4	85.9	82.4	262.7	
	オ ー ロ ラ	6.13	99	108	97	96	103	103	100	

注) 系統(地域)適応性検定試験の結果、乾物収量は「ノサップ」対比指数(%),「ノサップ」は実数(kg/a)。いずれも2～4年目の平均値。ただし、ホクレン(音更)の出穂始は2年目の値、番草別乾物収量は2、3年目の平均値。3か年合計は2～4年目の合計。「—」は未調査。全場所平均はホクレン(音更)を除く5場所の平均値。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成22年普及奨励ならびに指導参考事項, 21-23 (2010)
2) 足利和紀 等, 道総研農試集報. 96, 1-14 (2012)

(2) SBT0308 (系統名 SBT0308) 2010年

登録番号: (北海道) チモシー北海道合第11号
(種苗法) 第21344号

セールスポイント

中生の早で、「キリタツプ」と比べ、年間収量が多く、斑点病抵抗性が強く、1番草刈取後の再生が優れ、混播適性が良好である。

来歴 本品種は、雪印種苗株式会社が栄養系評価試験および多交配後代検定試験の結果から6栄養系を選抜し、合成品種法により育成した。2007年から各種試験を行い、2010年に優良品種となった。なお、市販品種名は「アルテミス」である。

特性概要

1. 出穂始は中生の晩の「キリタツプ」より6～7日早く、早晩性は“中生の早”である。
2. 出穂程度は一斉刈りでは1、2番草とも中生の晩の「キリタツプ」より高い。
3. 中生の晩の「キリタツプ」と比べ1番草はやや多収、

2番草は多収で、年間合計乾物収量は多収である。

4. 越冬性は「キリタツプ」と同程度、早春草勢は「キリタツプ」よりやや優れる。
5. 「キリタツプ」と比べ斑点病抵抗性はやや優れるが、すじ葉枯れ病抵抗性は同程度かやや劣る。
6. 耐倒伏性は「キリタツプ」と同程度である。
7. 草丈は、一斉刈りでは「キリタツプ」と比べ、1番草は同程度かやや高く、2番草は高い。
8. 1番草刈取後の再生は「キリタツプ」より優れる。
9. 秋の草勢は「キリタツプ」と同程度である。
10. 混播適性は「キリタツプ」より良好である。
11. 模擬放牧(単播・多回刈り)条件下における乾物収量が、「ホクシュウ」と比べ春季は少ないが夏季は多く、年間合計では同程度である。また、秋の被度は「ホクシュウ」と同程度で高い。したがって、多回刈適性は「ホクシュウ」と同程度である。

栽培適地と奨励態度

全道一円に適する。収量性、斑点病抵抗性、混播適性に優れる中生の早の品種として主に採草で利用するが、放牧でも利用できる。

試験場所名	品種名	出穂始 (月・日)	番草別乾物収量		年次別合計乾物収量			試験年次
			1 番草	2 番草	2 年目	3 年目	2 年合計	
北 見 農 試	SBT0308	6.18	103	130	111	108	110	2007～2009
	キ リ タ ッ プ	6.24	66.5	23.8	101.7	78.6	180.3	
上 川 農 試 天 北 支 場	SBT0308	6.23	106	136	113	112	112	
	キ リ タ ッ プ	6.26	79.6	23.4	108.3	97.6	205.9	

試験場所名	品種名	出穂始 (月.日)	番草別乾物収量		年次別合計乾物収量			試験年次
			1 番草	2 番草	2 年目	3 年目	2 年合計	
根 釧 農 試	SBT0308	6.28	102	124	109	107	108	2007～2009
	キ リ タ ッ プ	7. 4	89.4	35.8	126.2	124.3	250.5	
畜 試	SBT0308	6.20	107	161	112	128	119	
	キ リ タ ッ プ	6.25	78.8	22.0	119.8	81.5	201.3	
畜 試 滝 川 試 験 地	SBT0308	6.11	110	138	120	118	119	
	キ リ タ ッ プ	6.19	78.3	38.4	107.4	126.0	233.4	
北 農 研 セ ン タ ー	SBT0308	6.11	100	126	105	104	105	
	キ リ タ ッ プ	6.19	95.9	21.3	140.6	93.6	234.2	
全場所平均	SBT0308	6.18	104	135	111	113	112	
	キ リ タ ッ プ	6.25	81.4	27.5	117.3	100.3	217.6	

注) 乾物収量は「キリタツプ」対比指数(%),「キリタツプ」は実数(kg/a)。出穂始と番草別乾物収量は2, 3年目の平均値。
2 年合計は2, 3 年目の合計。

参照 1) 北海道農政部編, 平成22年普及奨励ならびに指導参考事項, 26-28 (2010)

(3) SBT0310 (系統名 SBT0310) 2010年

登録番号: (北海道) チモシー北海道合第12号

(種苗法) 第21343号

セールスポイント

中生で,「キリタツプ」と比べ,年間収量が多く,斑点病抵抗性がやや強く,耐倒伏性がやや強い。多回利用条件下における乾物収量が年間を通して「ホクシュウ」よりやや多い。

来歴 本品種は,雪印種苗株式会社が栄養系評価試験および多交配後代検定試験の結果から6栄養系を選抜し,合成品種法により育成した。2007年から各種試験を行い,2010年に優良品種となった。なお,市販品種名は「ヘリオス」である。

特性概要

1. 出穂始は中生の晩の「キリタツプ」より4日早く,早晚性は“中生”である。
2. 出穂程度は一斉刈りでは1, 2番草とも中生の晩の「キリタツプ」より高い。
3. 中生の晩の「キリタツプ」と比べ1番草は同程度の収量であるが,2番草は多収で,年間合計乾物収量は多収である。

4. 越冬性は「キリタツプ」と同程度,早春草勢は「キリタツプ」と同程度である。

5. 「キリタツプ」と比べ斑点病抵抗性はやや優れるが,すじ葉枯れ病抵抗性は同程度である。

6. 耐倒伏性は「キリタツプ」よりやや優れる。

7. 草丈は,一斉刈りでは「キリタツプ」と比べ,1番草は同程度かやや高く,2番草は高い。

8. 1番草刈取後の再生は「キリタツプ」よりやや優れる。

9. 秋の草勢は「キリタツプ」と同程度である。

10. 混播適性は「キリタツプ」と比べ同程度かやや良好である。

11. 模擬放牧(単播・多回刈り)条件下における乾物収量が,「ホクシュウ」と比べ春季,夏季,秋季のいずれにおいてもやや多く,年間合計ではやや多い。また,秋の被度は「ホクシュウ」と同程度で高い。したがって,多回刈適性は「ホクシュウ」と比べ同程度かやや良好である。

栽培適地と奨励態度

全道一円に適する。収量性,斑点病抵抗性,耐倒伏性に優れる中生品種として主に採草で利用するが,放牧でも利用できる。

試験場所名	品種名	出穂始 (月.日)	番草別乾物収量		年次別合計乾物収量			試験年次
			1 番草	2 番草	2 年目	3 年目	2 年合計	
北 見 農 試	SBT0310	6.20	101	122	107	106	107	2007～2009
	キリタツプ	6.24	66.5	23.8	101.7	78.6	180.3	
上 川 農 試 天 北 支 場	SBT0310	6.24	97	115	101	100	101	
	キリタツプ	6.26	79.6	23.4	108.3	97.6	205.9	
根 釧 農 試	SBT0310	6.29	98	111	102	102	102	
	キリタツプ	7. 4	89.4	35.8	126.2	124.3	250.5	
畜 試	SBT0310	6.22	98	141	102	116	108	
	キリタツプ	6.25	78.8	22.0	119.8	81.5	201.3	
畜 試 滝 川 試 験 地	SBT0310	6.15	103	127	107	113	111	
	キリタツプ	6.19	78.3	38.4	107.4	126.0	233.4	
北 農 研 セ ン タ ー	SBT0310	6.14	98	124	103	102	103	
	キリタツプ	6.19	95.9	21.3	140.6	93.6	234.2	
全 場 所 平 均	SBT0310	6.21	99	122	104	106	105	
	キリタツプ	6.25	81.4	27.5	117.3	100.3	217.6	

注) 乾物収量は「キリタツプ」対比指数(%),「キリタツプ」は実数(kg/a)。出穂始と番草別乾物収量は2, 3年目の平均値。
2 年合計は2, 3 年目の合計。

参照 1) 北海道農政部編, 平成22年普及奨励ならびに指導参考事項, 29-31 (2010)

5. スムーズブロムグラス

(1) フーレップ (系統名 北見7号) 2005年

登録番号: (北海道) スムーズブロムグラス北海道合第2号
(農水省) スムーズブロムグラス農林合2号
(種苗法) 第15415号

セールスポイント

「アイカップ」より収量性および褐斑病抵抗性に優れる。

来歴 本品種は、北海道立北見農業試験場において、生育良好で耐病性に優れる中生個体の選抜を2サイクル繰り返し、選抜した5母系16栄養系の交配による母系選抜法で育成した。2002年から、「北見7号」の系統名で各種の試験に供試し、2005年に優良品種となった。

特性概要

1. 早晚性は、出穂始が6月5日と「アイカップ」と同日であることから、「アイカップ」と同じ中生である。
2. 2～3年目の年間合計乾物収量が「アイカップ」より多いため、収量性は優れる。
3. 褐斑病に対しては「アイカップ」より低い罹病程度を示すため、褐斑病抵抗性は強い。
4. 越冬性は「アイカップ」より優れる。耐寒性は「アイカップ」と同じ“中”である。
5. 混播適性、飼料成分および採種性は「アイカップ」並である。
6. 形態的特性については、「アイカップ」より葉長、穂長が長い。

栽培適地と奨励態度

適応地域は北海道全域であり、「アイカップ」と置き換える。採草利用を主体とする。

試験場所名	品種名	出穂始 (月.日)	番草別乾物収量			年次別合計乾物収量			試験年次
			1 番草	2 番草	3 番草	2 年目	3 年目	2 年合計	
北 見 農 試	フーレップ	6. 2	99	110	104	105	103	104	2002～2004
	アイカップ	6. 2	32.0	26.3	18.1	82.0	70.5	152.5	
上 川 農 試 天 北 支 場	フーレップ	6. 5	113	115	114	108	120	114	
	アイカップ	6. 5	41.7	27.2	19.9	96.4	81.1	177.5	

試験場所名	品種名	出穂始 (月・日)	番草別乾物収量			年次別合計乾物収量			試験年次
			1 番草	2 番草	3 番草	2 年目	3 年目	2 年合計	
根 釧 農 試	フーレップ	6. 9	96	104	105	98	102	100	2002～2004
	アイカップ	6. 9	37.2	27.9	16.9	85.2	78.8	164.0	
畜 試	フーレップ	6. 3	112	108	113	116	106	111	
	アイカップ	6. 3	32.5	30.5	16.1	74.4	83.7	158.1	
北 農 研 セ ン タ ー	フーレップ	6. 5	109	107	124	113	108	110	
	アイカップ	6. 6	38.5	22.7	7.1	62.6	73.7	136.3	
全場所平均	フーレップ	6. 5	106	109	110	108	108	108	
	アイカップ	6. 5	36.4	26.9	15.6	80.1	77.6	157.7	

注) 乾物収量は「アイカップ」対比指数(%), 「アイカップ」は実数(kg/a)。出穂始と番草別乾物収量は2, 3年目の平均値。
2 年合計は2, 3 年目の合計。

参照 1) 北海道農政部編, 平成17年普及奨励ならびに指導参考事項, 24-26 (2005)
2) 玉置宏之 等, 北海道立農試集報. 89, 25-34 (2005)

6. ペレニアルライグラス

(1) チニタ (系統名 天北5号) 1999年

登録番号: (北海道) ペレニアルライグラス北海道合第2号
: (種苗法) 第18471号

セールスポイント

採草・放牧兼用利用に適した中生品種で、放牧条件下での採食性が良好である。採種時の種子収量が多い。

来歴 本品種は北海道立上川農業試験場天北支場において、越冬性、早春草勢、収量性に優れる採草・放牧兼用利用向け品種の育成を目標として育成された中生品種である。道内で収集したエコタイプ由来の6栄養系による合成品種法により育成された。2005年から「天北5号」の系統名で各種試験を行い、2008年に優良品種となった。

特性概要

1. 出穂始は「ポコロ」より5～8日, 「ファントム」より4～5日早く、早晚性は中生の早に属する。
2. 兼用利用での乾物収量は、1番草は「ポコロ」より少ないが「ファントム」よりやや多く、2番草以降の多回刈合計は「ポコロ」より多く「ファントム」と同程度であることから、中生種としてはやや多収である。

度であることから、中生種としてはやや多収である。

1 番草収穫後の季節生産性は「ポコロ」よりやや優れる。

3. 越冬性は「ポコロ」, 「ファントム」よりやや劣る場合があるが、実用上問題がないレベルを有する。

4. 飼料成分は、兼用利用1番草の粗蛋白質含量が「ポコロ」より高く、多回利用時の水溶性糖類含量が「ポコロ」, 「ファントム」より高い。

5. 放牧条件下での採食性が「ポコロ」と比べてやや良好であり、放牧適性は「ポコロ」よりやや優れる。

6. 採種性は「ポコロ」, 「ファントム」より非常に優れる。

7. 葉腐病罹病程度は「ポコロ」より低く、斑点病および網斑病罹病程度は「ポコロ」と同程度である。

8. 混播適性は「ポコロ」と同程度で良好である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道北、道央および道南であり、土壌凍結地帯での栽培は避ける。利用方法は1番草を採草し、その後放牧を行う兼用利用を主とする。造成2年目に倒伏が発生する場合があるので、採草時は適期に刈り取る。

試験場所名	品種名	出穂始 (月/日)	越冬性	早春草勢	兼用利用での乾物収量			種子収量 (kg/a/年)	試験年次
					1 番草	夏秋合計	年間合計		
天 北 支 場	チ ニ タ	6/14	4.9	7.0	89	111	98	7.90	2005～2007
	ファントム	6/19	5.1	5.6	83	113	94	4.98	
	ポ コ ロ	6/22	4.8	5.9	(115.1)	(75.3)	(190.4)	5.15	
北 農 研	チ ニ タ	6/6	4.9	5.1	75	132	89	—	
	ファントム	6/10	5.7	4.9	71	132	86	—	
	ポ コ ロ	6/11	5.9	6.3	(125.0)	(39.8)	(164.8)	—	

注) 越冬性および早春草勢は 9 : 極良～ 1 : 極不良による観察評点。
乾物収量の値は「ポコロ」が実数 (kg/a), 他は「ポコロ」対比 (%) である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成20年普及奨励ならびに指導参考事項, 19-22 (2008)。
2) 吉田昌幸 等, 北海道立農試集報, 94, 17-30 (2009)。

7. イタリアンライグラス

(1) プリモラ (原名 Primora) 2011年
登録番号: (北海道) イタリアンライグラス輪第 3 号

セールスポイント

1 番草が多収で, 地下茎型イネ科雑草防除能力が高い
早生品種である。

来歴 本品種は, デンマークのDLF Trifolium社が育成した 4 倍体の品種で, 高収量育成系統由来の 6 個体の栄養系からなる合成品種法で育成された。ホクレン農業協同組合連合会及び雪印種苗株式会社が導入し, 2008年から各種試験を行い, 2011年に優良品種となった。

特性概要

1. 出穂始は「ベリオン」より 1 日早く, 「マンモスB」より 2 日遅く, 早晚性は早生に属する。
2. 出穂程度は「ベリオン」より多く, 「マンモスB」よりやや少ない。
3. 乾物収量は 3 カ年全道平均で「ベリオン」比105%でやや多く, 「マンモスB」並。番草別では 1 番草で多収。
4. 耐倒伏性は「ベリオン」より弱く, 「マンモスB」並である。

5. 耐病性は「ベリオン」及び「マンモスB」並である。

6. 最終刈取り時 (3 番草) の地下茎型イネ科雑草の乾物収量が「ベリオン」と比べやや少なく, 雑草防除能力は高い。

7. 草丈は 1 番草で「ベリオン」より高く, 2, 3 番草では「ベリオン」及び「マンモスB」と同程度である。

8. 乾物率は各番草とも「ベリオン」よりやや高く, 「マンモスB」並である。

9. 秋の草勢は「ベリオン」, 「マンモスB」と同程度である。

10. 越冬後再生率は「ベリオン」及び「マンモスB」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は稲作地帯を除く全道である。本品種は除草剤を使用しない耕種的雑草防除技術に利用できるが, アカヒゲホソミドリカスミカメの発生源となることから, 稲作地帯での栽培は避ける。自然下種による野生化を防ぐため, 開花期前に収穫する。イタリアンライグラスは道内では一年生であるが, 冬期間の気象条件によっては一部の個体が越冬することがあるので, 後作栽培においては開花期前までに耕起を行う。

品種名	出穂始 (月/日)	越冬後 再生率 (%)	乾物収量 ¹⁾				3 番草地下茎型イネ科雑草収量 ¹⁾²⁾				試験年次
			1 番草	2 番草	3 番草	年間合計	2008年	2009年	2010年	3 カ年平均	
Primora	7/ 9	11	118	102	101	105	22	157	67	83	2008～2010
ベリオン(標準)	7/10	13	(147)	(239)	(287)	(673)	(13)	(15)	(23)	(17)	
マンモスB(比較)	7/ 7	9	126	100	100	106	43	90	82	74	

注) 1) 「ベリオン」が実数 (kg/a), 他は「ベリオン」対比 (%) である (北農研・天北・根釧・北見・畜試の 3 カ年平均)。
2) 2008年及び2009年はシバムギ優占草地, 2010年はリードカナリーグラス優占草地への播種 (根釧農試)。

参照 1) 北海道農政部編, 平成23年普及奨励ならびに指導参考事項, 12-14 (2011)。

(2) タチサカエ (原名 タチサカエ) 2011年
登録番号: (北海道) イタリアンライグラス移第 4 号
(種苗法) 第17089号

セールスポイント

多収で, 地下茎型イネ科雑草防除能力が高い早生品種である。

来歴 本品種は、タキイ種苗株式会社が育成した4倍体の品種で、「ナガハヒカリ」及び「ジャイアントイタリアン」を母材とした集団選抜により育成された。2008年から各種試験を行い、2011年に優良品種となった。

特性概要

1. 出穂始は「ビリオン」より1日、「マンモスB」より4日遅く、早晩性は早生に属する。
2. 出穂程度は1～3番草のいずれも「ビリオン」より低く、番草が進むにつれその差が大きくなる傾向にある。
3. 「ビリオン」と比べ年間合計乾物収量は多収で、特に3番草が多収である。
4. 耐倒伏性は「ビリオン」と同程度である。
5. 冠さび病及び葉腐病抵抗性は「ビリオン」、「マンモスB」と同程度である。
6. 最終刈取り時（3番草）の地下茎型イネ科雑草の乾

物収量が「ビリオン」より少なく、雑草防除能力は高い。

7. 草丈は1～3番草とも「ビリオン」と同程度である。
8. 乾物率は1，2番草が「ビリオン」と同程度で，3番草はやや低い。
9. 秋の草勢は「ビリオン」よりやや優れる。
10. 越冬後再生率は「ビリオン」よりやや高い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は稲作地帯を除く全道である。本品種は除草剤を使用しない耕種的雑草防除技術に利用できるが、アカヒゲホソミドリカスミカメの発生源となることから、稲作地帯での栽培は避ける。自然下種による野生化を防ぐため、開花期前に収穫する。イタリアンライグラスは道内では一年生であるが、冬期間の気象条件によっては一部の個体が越冬することがあるので、後作栽培においては開花期前までに耕起を行う。

品種名	出穂始 (月/日)	越冬後 再生率 (%)	乾物収量 ¹⁾				3番草地下茎型イネ科雑草収量 ¹⁾²⁾				試験年次
			1番草	2番草	3番草	年間合計	2008年	2009年	2010年	3カ年平均	
タチサカエ	7/11	21	107	106	116	111	69	144	52	84	2008～2010
ビリオン(標準)	7/10	13	(147)	(240)	(287)	(673)	(13)	(15)	(23)	(17)	
マンモスB(比較)	7/ 7	9	125	100	100	106	43	90	82	74	

注) 1) 「ビリオン」が実数 (kg/a)，他は「ビリオン」対比 (%) である (北農研・天北・根釧・北見・畜試の3カ年平均)。

2) 2008年及び2009年はシバムギ優占草地，2010年はリードカナリーグラス優占草地への播種 (根釧農試)。

参照 1) 北海道農政部編，平成23年普及奨励ならびに指導参考事項，15-17 (2011)。

- (3) **ヒタチヒカリ** (原名 ヒタチヒカリ) 2011年
登録番号：(北海道) イタリアンライグラス移第5号
(種苗法) 第7090号

セールスポイント

やや多収で、耐倒伏性がやや優れ、地下茎型イネ科雑草防除能力が極めて高い晩生品種である。

来歴 本品種は、茨城県畜産試験場が育成した4倍体の品種で、「ヤマアオバ」等の倍加11系統を母材として、6世代の集団選抜と2世代の母系選抜により育成された。2008年から各種試験を行い、2011年に優良品種となった。

特性概要

1. 出穂始は「ビリオン」より7日、「マンモスB」より10日遅く、早晩性は晩生に属する。
2. 出穂程度は1～3番草のいずれも「ビリオン」より低く、番草が進むにつれその差が大きくなる。

3. 「ビリオン」と比べ，1番草は多収で，2番草が低収，3番草は同程度で，年間合計乾物収量はやや多収である。

4. 耐倒伏性は「ビリオン」よりやや優れる。
5. 冠さび病抵抗性は「ビリオン」、「マンモスB」と同程度で，葉腐病抵抗性はやや劣る。
6. 最終刈取り時（3番草）の地下茎型イネ科雑草の乾物収量が「ビリオン」より少なく，雑草防除能力は極めて高い。
7. 草丈は1番草が「ビリオン」と同程度で，2，3番草は低い。
8. 乾物率は1番草が「ビリオン」と同程度で，2，3番草はやや低い。
9. 秋の草勢は「ビリオン」と同程度である。
10. 越冬後再生率は「ビリオン」より高い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は稲作地帯を除く全道である。本品種は除草

剤を使用しない耕種的雑草防除技術に利用できるが、アカヒゲホソミドリカスミカメの発生源となることから、稲作地帯での栽培は避ける。本品種は出穂程度が低く、出穂茎を確認しづらいので、収穫は生育日数で1番草50～60日、2番草30日、3番草45日程度を目安とし、自然下種による野生化を防ぐため、開花期前に収穫する。イ

タリアンライグラスは道内では一年生であるが、冬期間の気象条件によっては一部の個体が越冬することがあり、とくに本品種は越冬後再生率が高いことから、後作栽培においては雑草化を防ぐため、開花期前までに耕起を行う。

品種名	出穂始 (月/日)	越冬後 再生率 (%)	乾物収量 ¹⁾				3番草地下茎型イネ科雑草収量 ¹⁾²⁾				試験年次
			1番草	2番草	3番草	年間合計	2008年	2009年	2010年	3カ年平均	
ヒタチヒカリ	7/17	27	125	94	101	104	17	93	19	41	2008～2010
ビリオン(標準)	7/10	13	(147)	(240)	(287)	(673)	(13)	(15)	(23)	(17)	
マンモスB(比較)	7/7	9	125	100	100	106	43	90	82	74	

注) 1) 「ビリオン」が実数 (kg/a), 他は「ビリオン」対比 (%) である (北農研・天北・根釧・北見・畜試の3カ年平均)。

2) 2008年及び2009年はシバムギ優占草地、2010年はリードカナリーグラス優占草地への播種 (根釧農試)。

参照 1) 北海道農政部編, 平成23年普及奨励ならびに指導参考事項, 18-20 (2011)。

8. オーチャードグラス

(1) はるねみどり (系統名 北海29号) 2005年

登録番号: (北海道) オーチャードグラス北海道合第9号
(農水省) オーチャードグラス農林合第10号
(種苗法) 第15414号

セールスポイント

早生に属し、越冬性および早春の草勢に優れ、3年目収量および春と秋の収量が優れている。

来歴 1992年に基礎集団を展開し、1995年に再生に優れた225個体を選抜した。225栄養系を多回刈りと少回刈り処理し、1997年に再生と各時期の草勢に優れた5栄養系を選抜し多交配した。1999年に合成2代を採種し、「北海29号」を付した。2002年より系統適応性等の各種試験に供試し、2005年に北海道優良品種となった。

特性概要

1. 早晩性: 出穂始は、「ワセミドリ」より1日遅く、「早生」に属する。
2. 収量性: 「ワセミドリ」と同程度かやや優れる。1番草収量はやや多く、4番草収量が多い。3年目収量は多く、3年目の収量の低下は小さい。
3. 越冬性と早春の草勢: 「ワセミドリ」より優れる。
4. 混播適性: アカクロバは年平均約20%を維持し、混播適性は、「ワセミドリ」と同程度である。
5. 耐倒伏性ほか: 耐倒伏性、飼料成分、採種性は「ワセミドリ」と同程度で、形態的特性に大差はない。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。採草および放牧に利用できる。黒さび病の発生がやや多いので、発生した場合は早めに収穫する。

	番草別収量(「ワセミドリ」比%)				3年目収量の前年比 (%)
	1番草	2番草	3番草	4番草	
はるねみどり	104	100	100	109	93
ワセミドリ	37.3	30.8	28.3	16.3	89

注) 道内系適場所5カ所の平均値を示す。

番草別収量は、「ワセミドリ」は実数 (kg/a), データは2, 3年目平均。

参照 1) 北海道農政部編, 平成17年普及奨励ならびに指導参考事項, 21-23 (2005)。

(2) **パイカル**（系統名 HOG-1）2006年
登録番号：（北海道）オーチャードグラス北海道合第10号

セールスポイント

晩生に属し、収量性、越冬性に優れた品種である。

来歴 ホクレン農業協同組合連合会が、1983年から越冬性、耐病性を中心に優良栄養系の選抜を行い、それら栄養系の多交配後代検定試験から優良9栄養系を選定し、1999年に合成した。合成2代種子を用い、2003年から2005年まで道内各地において各種試験に供試した。2006年に北海道優良品種となった。

特性概要

1. 早晚性：出穂始は「ヘイキング」と同じで、「ハル

	番草別収量(「ワセミドリ」比%)			3年目収量の前年比(%)
	1番草	2番草	3番草	
パイカル	111	109	93	85
ヘイキング	95.1	52.6	49.1	82

注) 道内6カ所の平均値を示す。

番草別収量は、「ヘイキング」は実数 (kg/a)、データは2, 3年目合計。

参照 1) 北海道農政部編, 平成18年普及奨励ならびに指導参考事項, 19-21 (2006)。

ジマン」より2日遅く、晩生に属する。

2. 収量性：「ヘイキング」より優れる。番草別にみると1番草, 2番草は優れ, 3番草は劣る。3年目収量の低下は「ヘイキング」と同程度である。
3. 越冬性：「ヘイキング」より優れ, 早春の草勢は, 「ヘイキング」よりやや優れる。
4. 競合力：アカクローバとの競合力は, 「ヘイキング」より強い。
5. 耐倒伏性：「ヘイキング」と同程度である。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。採草および放牧に利用できる。黒さび病にやや弱いので、発生した場合は早めに収穫する。

9. メドウフェスク

(1) **まきばさかえ**（系統名 北海15号）2009年
登録番号：（北海道）メドウフェスク北海道合第3号
（農水省）メドウフェスク農林合第3号
（種苗法）第22044号

セールスポイント

雪腐病抵抗性の向上により土壤凍結地帯の道東での越冬性が優れる。多収で、特に春季と秋季に優れる。

来歴 北農研と根釧農試で1994年から1996年にかけて144系統からなる基礎集団を評価した。1997年に越冬性、草勢などに優れる栄養系を選抜し、場所ごとに多交配した。それら後代を用い、1998年から2000年までシロクローバ混播条件にて多回刈り処理を行い、2001年に5栄養系を選定し、多交配した。2002年に合成2代を採種し、「北海15号」を付した。2005年から系統適応性等の各試験に供試した。2009年に北海道優良品種となった。

特性概要

1. 早晚性：出穂始は「ハルサカエ」より約1日早く、早生に属する。
2. 越冬性：越冬性および早春の草勢は, 「ハルサカエ」および「プラデール」より安定して優れ, 特に土壤凍結地帯の道東においては両品種との差が大きい。
3. 耐病性：雪腐大粒菌核病に対する抵抗性は, 「ハルサカエ」および「プラデール」より優れる。耐寒性は「ハルサカエ」と同程度で, 「プラデール」より優れる。
4. 収量性：3カ年合計乾物収量は, 「ハルサカエ」比108, 道東平均では107と多収である。年次ごとの収量は, 「ハルサカエ」を上回り, 「プラデール」と比較しても優れる傾向である。季節生産性は, 「ハルサカエ」より春季と秋季に優れ, 夏季は同程度である。

栽培適地と奨励態度

北海道一円, 特に道東などの土壤凍結地帯に適する。放牧利用を主体とする。

	越 冬 性	乾物収量（「ハルサカエ」比％）			
		2 年目	3 年目	4 年目	合 計
ま き ば さ か え	6.0	107	104	110	107
ハ ル サ カ エ	4.7	70.4	58.1	56.6	185.1
プ ラ デ ー ル	4.1	102	91	88	94

注) 道内系適場所 7 カ所のうち、道東 4 場の平均値。

越冬性は、2 年目以降の 3 カ年平均値。乾物収量は年間合計（「ハルサカエ」は実数（kg/a））。

参照 1) 北海道農政部編，平成21年普及奨励ならびに指導参考事項，15-17（2009）。

10. ケンタッキーブルーグラス

(1) ラトー（系統名 Lato）2007年

登録番号：（北海道）ケンタッキーブルーグラス北海道第1号

セールスポイント

発芽・定着時草勢に優れる。多収で、シロクロバとの競合力に優れる。

来歴 ドイツのSteinach社が育成し、1989年にOECD登録された。2001年から雪印種苗株式会社が予備試験を開始し、2004年から2006年にかけて道内各地で各種試験が行われた。2007年に北海道優良品種となった。

特性概要

1. 早晚性：出穂始は「トロイ」より 3 日遅く、「早生」

に属する。

2. 発芽，初期生育：「トロイ」より優れる。

3. 収量性：乾物収量は 2 年目（播種翌年）から「トロイ」より多く，3 年目も安定して多収である。季節別にみると春季，夏季は「トロイ」より多く，秋季は同程度である。

4. 越冬性および早春の草勢：「トロイ」より優れる。

5. 越冬前草勢：「トロイ」よりやや優れ，秋の被度は「トロイ」より高い。

6. 競合力：シロクロバとの競合力は，「トロイ」より大きい。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。放牧に利用できる。

	定着時草勢	乾物収量（「トロイ」比％）			混播試験での シロクロバ率（％）
		春 季	夏 季	秋 季	
ラ ト ー	7.3	109	109	100	24
ト ロ イ	5.0	10.7	10.4	8.7	43

注) 定着時草勢は，4 調査の平均値。乾物収量は，2，3 年目の平均値。シロクロバ率は，「ソーニャ」との混播試験での 2，3 年目 1 番草の平均値（畜試）。

参照 1) 北海道農政部編，平成19年普及奨励ならびに指導参考事項，45-47（2007）。

11. とうもろこし（飼料用）

(1) ぱびりか（系統名 北交62号）2005年

登録番号：（北海道）とうもろこし(飼)北海道交第29号
（農水省）とうもろこし農林交64号
（種苗法）第18763号

セールスポイント

初期生育に優れ，多収で，乾物中の雌穂の割合が高く，すす紋病抵抗性に優れる。

来歴 1998年に「Ho87」を種子親とし，「To85」を花粉親として両親系統間の交配を行い，根釧農試での 2 か年の現地組合せ能力検定試験の後，2001年に「月交593」の系統番号を付した。その後，生産力検定試験，系統適応性検定試験および病害抵抗性と耐冷性の特性検定試験で有望と認め，2002年に「北交62号」の系統名を付した。2005年に北海道優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「エマ」より2日早く、収穫時熟度は「エマ」並で、総体乾物率は「エマ」より高い。熟期は“早生の早”に属する。
2. 耐倒伏性は「エマ」並である。
3. 初期生育は「エマ」より優れる。
4. 乾物総重および推定TDN収量は「エマ」より多い。乾雌穂重割合は「エマ」より高い。

5. すず紋病抵抗性は「エマ」および「ダイヘイゲン」より優れる。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は根釧地域に限定する。露地での通常畦幅栽培では、密植するとたびきの発生が多くなるので、栽植密度は10アール当たり8000～8500本程度とする。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 ～ 9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 折 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
根 釧 農 試	ぱ び り か エ マ	6.9	8.16	24.3	糊中～後	1099	787	109	26.1	71.6	2001～2004
		4.6	8.18	22.0	糊熟後期	1038	719	100	22.9	69.3	

参照 1) 北海道農政部編，平成17年普及奨励ならびに指導参考事項，27-29（2005）

(2) きたちから（系統名 北交64号）2005年

登録番号：（北海道）とうもろこし(飼)北海道交第30号
（農水省）とうもろこし農林交57号
（種苗法）第18652号

セールスポイント

耐倒伏性が強く、多収で、収穫時の乾物率が高い中生品種である。

来歴 本品種は独立行政法人北海道農業研究センターが、耐倒伏性と多収性に優れた中生品種の育成を目標に、1998年にデント種「Ho68」を種子親，デント種「GY302」を花粉親として両親系統間の交配を行い，組合せ能力検定試験の後，2000年に「月交587」の系統名を付し，十勝農試での生産力検定予備試験を行った。その後，生産力検定試験、系統適応性検定試験および病害抵抗性と耐冷性の特性検定試験で有望と認め，2002年より「北交64号」の系統名で各種の試験を行い，2005年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ロイヤルデント90H」より4日遅いが、収穫時熟度は「ロイヤルデント90H」並で、総体乾物率は「ロイヤルデント90H」よりやや高い。熟期は“中生の早”に属する。
2. 耐倒伏性は「ロイヤルデント90H」並である。
3. 発芽期及び初期生育は「ロイヤルデント90H」並である。
4. 乾物総重は「ロイヤルデント90H」より多い。乾物中推定TDN割合は「ロイヤルデント90H」よりやや高い。
5. 稈長及び着雌穂高は「ロイヤルデント90H」よりやや高い。
6. すず紋病抵抗性は「キタユタカ」より強く，「ロイヤルデント90H」よりやや強い。ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」および「ロイヤルデント90H」より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部，十勝中部および網走内陸部の気象条件が良好な地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 ～ 9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 折 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	きたちから ロイヤルデント90H	5.0	8.4	0.7	黄 初	1637	1185	107	27.7	72.4	2000～2004
		5.5	7.30	2.0	黄 初	1523	1104	100	25.3	72.5	
十 勝 牧 場	きたちから ロイヤルデント90H	8.7	8.7	5.0	乳後～糊初	1588	1114	102	27.0	70.2	2002～2004
		8.3	8.2	3.6	糊初～中	1515	1116	100	25.3	73.7	
北 見 農 試 (遠軽町)	きたちから ロイヤルデント90H	5.0	8.8	27.8	糊 中	1454	1012	105	28.8	69.6	2003～2004
		6.0	8.3	37.4	糊 中	1327	964	100	26.6	72.6	

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1 極不良 - 9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
上 川 農 試 (士別市)	きたちから ロイヤルデント90H	7.0	8.9	0.0	糊初一中	1891	1364	102	30.4	72.1	2003～2004
		7.3	8.6	0.0	糊初一中	1869	1343	100	26.6	71.9	

参照 1) 北海道農政部編, 平成17年普及奨励ならびに指導参考事項, 30-32 (2005)

(3) 39F83 (系統名 X0739A) 2005年

登録番号: (北海道) とうもろこし(飼)輸交第31号

セールスポイント

やや多収な早生品種である。

来歴 本品種は, アメリカのパイオニア社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。2001年にホクレン農業協同組合連合会が導入し, 2002年より「X0739A」の系統名で各種の試験を行い, 2005年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「オーロラ82」より1日遅く, 収穫時熟度は「オーロラ82」並である。雌穂および総体乾物率は「オーロラ82」より高い。熟期は“早生の中”に属す

る。

2. 耐倒伏性は「オーロラ82」並である。
3. 発芽期は「オーロラ82」より1日遅く, 初期生育は「オーロラ82」よりやや劣る。
4. 乾物総重, 推定TDN収量は「オーロラ82」よりやや多い。乾雌穂重割合は「オーロラ82」より高く, 乾物中推定TDN 割合は「オーロラ82」よりやや高い。
5. 稈長および着雌穂高は「オーロラ82」よりやや高い。
6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや強く「オーロラ82」並である。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く「オーロラ82」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部, 十勝および網走地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1 極不良 - 9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	3 9 F 8 3 オ ー ロ ラ 82	4.5	8.8	12.0	黄 初	1516	1100	92	26.1	72.6	2002～2004
		6.0	8.6	15.7	黄 中	1654	1192	100	25.1	72.0	
十 勝 農 試	3 9 F 8 3 オ ー ロ ラ 82	5.2	8.2	4.3	黄 初	1698	1243	103	29.2	73.1	2002～2004
		5.8	8.1	0.7	黄 初	1679	1205	100	26.9	71.8	
上 川 農 試	3 9 F 8 3 オ ー ロ ラ 82	7.0	7.24	2.3	黄 中	1955	1408	111	31.3	72.0	2002～2004
		7.6	7.23	0.9	黄 中	1784	1271	100	27.7	71.3	

参照 1) 北海道農政部編, 平成17年普及奨励ならびに指導参考事項, 36-37 (2005)

(4) 39H32 (系統名 39H32) 2005年

登録番号: (北海道) とうもろこし(飼)輸交第32号

セールスポイント

やや多収で耐倒伏性がやや強い早生品種である。

来歴 本品種は, アメリカのパイオニア社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。2001年にホクレン農業協同組合連合会が導入し, 2002年より「39H32」の系統名で各種の試験を行い, 2005年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「オーロラ82」より1日遅い。収穫時熟度 および総体乾物率は「オーロラ82」並で, 雌穂乾物率は「オーロラ82」よりやや高い。熟期は“早生の中”に属する。
2. 耐倒伏性は「オーロラ82」よりやや強い。
3. 発芽期は「オーロラ82」並で, 初期生育は「オーロラ82」よりやや劣る。
4. 乾物総重, 推定TDN収量は「オーロラ82」よりやや多い。乾雌穂重割合は「オーロラ82」より高く, 乾物中推定TDN 割合は「オーロラ82」よりやや高い。

5. 稈長は「オーロラ82」より高く、着雌穂高は「オーロラ82」よりやや高い。
6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや強く「オーロラ82」並である。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや強く「オーロラ82」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部，十勝および網走地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 - 9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 折 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	3 9 H 3 2	5.1	8. 7	1.9	黄 初	1628	1178	99	24.3	72.4	2002～2004
	オ ー ロ ラ 82	6.0	8. 6	15.7	黄 中	1654	1192	100	25.1	72.0	
十 勝 農 試	3 9 H 3 2	5.5	8. 3	4.3	黄 初	1782	1301	108	27.3	73.0	2002～2004
	オ ー ロ ラ 82	5.8	8. 1	1.3	黄 初	1679	1205	100	26.9	71.8	
上 川 農 試	3 9 H 3 2	6.3	7.25	0.0	黄初～中	1979	1428	112	28.4	72.2	2002～2004
	オ ー ロ ラ 82	7.6	7.23	0.9	黄 中	1784	1271	100	27.7	71.3	

参照 1) 北海道農政部編，平成17年普及奨励ならびに指導参考事項，38-39（2005）

- (5) シンシア90（系統名 SL9945）2005年
登録番号：（北海道）とうもろこし(飼)北海道交第34号

セールスポイント

耐倒伏性がやや強い早生品種である。

来歴 本品種は，雪印種苗株式会社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。2002年より「SL9945」の系統名で各種の試験を行い，2005年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「オーロラ82」より1日遅く，収穫時熟度は「オーロラ82」並である。雌穂乾物率は「オーロラ82」より高く，総体乾物率は「オーロラ82」よりやや高

い。熟期は“早生の中”に属する。

2. 耐倒伏性は「オーロラ82」よりやや強い。
3. 発芽期および初期生育は「オーロラ82」並である。
4. 乾物総重，推定TDN収量，乾雌穂重割合および乾物中推定TDN割合は，いずれも「オーロラ82」並である。
5. 稈長および着雌穂高は「オーロラ82」並である。
6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く「オーロラ82」並である。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」より極めて強く「オーロラ82」より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部，十勝および網走地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 - 9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 折 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	シンシア 90	5.9	8. 7	1.4	黄 初	1517	1094	93	26.6	72.1	2002～2004
	オ ー ロ ラ 82	6.0	8. 6	15.7	黄 中	1633	1176	100	25.3	71.9	
十 勝 農 試	シンシア 90	6.4	8. 1	2.0	黄 初	1743	1240	103	28.7	71.2	2002～2004
	オ ー ロ ラ 82	5.8	8. 1	1.3	黄 初	1679	1205	100	26.9	71.8	
上 川 農 試	シンシア 90	7.7	7.24	0.0	黄 中	1920	1362	107	30.8	71.0	2002～2004
	オ ー ロ ラ 82	7.6	7.23	0.9	黄 中	1784	1271	100	27.7	71.3	

参照 1) 北海道農政部編，平成17年普及奨励ならびに指導参考事項，42-43（2005）

(6) **ブリザック**（系統名 HK0901）2005年
登録番号：（北海道）とうもろこし(飼)輸交第33号

セールスポイント

多収な中生品種である。

来歴 本品種は、ドイツのクラインワンツレーベン育種株式会社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。2000年にホクレン農業協同組合連合会が導入し、2002年より「HK0901」の系統名で各種の試験を行い、2005年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ロイヤルデント90H」より3日遅く、収穫時熟度、雌穂および総体乾物率は「ロイヤルデント90H」並である。熟期は“中生の早”に属する。

2. 耐倒伏性は「ロイヤルデント90H」よりやや弱い。
3. 発芽期および初期生育は「ロイヤルデント90H」並である。
4. 乾物総重、推定TDN収量は「ロイヤルデント90H」より多い。乾雌穂重割合および乾物中推定TDN割合は「ロイヤルデント90H」並である。
5. 稈長および着雌穂高は「ロイヤルデント90H」よりやや高い。
6. すず紋病抵抗性は「キタユタカ」より強く「ロイヤルデント90H」よりやや強い。ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」および「ロイヤルデント90H」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は、道央北部、十勝中部および網走内陸の気象条件の良好な地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1極不良 ～9極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 折 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	ブ リ ザ ッ ク	5.1	8. 8	19.9	黄 初	1611	1166	104	23.6	72.3	2002～2004
	ロイヤルデント90H	5.8	8. 5	0.9	黄 初	1560	1118	100	24.6	71.7	
十 勝 農 試	ブ リ ザ ッ ク	5.4	8. 2	8.2	黄 初	1753	1274	112	26.0	72.6	2002～2004
	ロイヤルデント90H	5.7	7.31	0.2	黄 初	1572	1137	100	26.2	72.3	
上 川 農 試	ブ リ ザ ッ ク	7.0	7.25	6.5	黄初～中	2083	1490	114	27.4	71.5	2002～2004
	ロイヤルデント90H	7.5	7.21	0.0	黄初～中	1802	1302	100	27.8	72.2	

参照 1) 北海道農政部編，平成17年普及奨励ならびに指導参考事項，40-41（2005）

(7) **SH1353**（系統名 SH1353）2005年
登録番号：（北海道）とうもろこし(飼)北海道交第35号

セールスポイント

多収な中生品種である。

来歴 本品種は、雪印種苗株式会社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。2002年より「SH1353」の系統名で各種の試験を行い、2005年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ロイヤルデント90H」より4日遅く、収穫時熟度は「ロイヤルデント90H」並である。雌穂乾物率は「ロイヤルデント90H」より低く、総体乾物率は「ロイヤルデント90H」並である。熟期は“中生の早”に属する。
2. 耐倒伏性は「ロイヤルデント90H」並である。

3. 発芽期は「ロイヤルデント90H」より2日早く、初期生育は「ロイヤルデント90H」よりやや優れる。
4. 乾物総重は「ロイヤルデント90H」より多く、推定TDN収量は「ロイヤルデント90H」よりやや多い。乾雌穂重割合は「ロイヤルデント90H」より低く、乾物中推定TDN割合は「ロイヤルデント90H」よりやや低い。
5. 稈長および着雌穂高は「ロイヤルデント90H」より高い。
6. すず紋病抵抗性は「キタユタカ」および「ロイヤルデント90H」より強い。ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」および「ロイヤルデント90H」より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は、道央北部、十勝中部および網走内陸の気象条件の良好な地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 - 9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	S H 1 3 5 3	6.2	8. 9	16.2	黄 初	1647	1167	104	23.8	70.9	2002～2004
	ロイヤルデント90H	5.8	8. 5	0.9	黄 初	1560	1118	100	24.6	71.7	
十 勝 農 試	S H 1 3 5 3	6.9	8. 3	6.4	黄 初	1772	1252	110	25.0	70.6	2002～2004
	ロイヤルデント90H	5.7	7.31	0.2	黄 初	1572	1137	100	26.2	72.3	
上 川 農 試	S H 1 3 5 3	8.1	7.25	0.5	黄初～中	1991	1407	108	28.0	70.6	2002～2004
	ロイヤルデント90H	7.5	7.21	0.0	黄初～中	1802	1302	100	27.8	72.2	

参照 1) 北海道農政部編, 平成17年普及奨励ならびに指導参考事項, 44-45 (2005)

(8) KD417 (系統名 KD417) 2005年

登録番号: (北海道) とうもろこし(飼)輸交第36号

セールスポイント

すす紋病抵抗性が強く, 多収な中生品種である。

来歴 本品種は, ドイツのクラインワンツレーベン育種株式会社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。2000年にカネコ種苗株式会社が導入し, 2002年より「KD417」の系統名で各種の試験を行い, 2005年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ロイヤルデント90H」より4日遅く, 収穫時熟度は「ロイヤルデント90H」並である。雌穂乾物率は「ロイヤルデント90H」よりやや低く, 総体乾物率は「ロイヤルデント90H」並である。熟期は“中生の

早”に属する。

2. 耐倒伏性は「ロイヤルデント90H」よりやや弱い。
3. 発芽期は「ロイヤルデント90H」より1日早く, 初期生育は「ロイヤルデント90H」よりやや劣る。
4. 乾物総重, 推定TDN収量は「ロイヤルデント90H」より多い。乾雌穂重割合および乾物中推定TDN割合は「ロイヤルデント90H」並である。
5. 稈長および着雌穂高は「ロイヤルデント90H」よりやや高い。
6. すす紋病抵抗性は「キタユタカ」および「ロイヤルデント90H」より強い。ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」および「ロイヤルデント90H」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は, 道央北部, 十勝中部および網走内陸の気象条件の良好な地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 - 9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	K D 4 1 7	4.5	8. 9	15.3	黄 初	1683	1211	108	23.6	71.9	2002～2004
	ロイヤルデント90H	5.8	8. 5	0.9	黄 初	1560	1118	100	24.6	71.7	
十 勝 農 試	K D 4 1 7	5.0	8. 3	18.9	黄 初	1735	1263	111	25.2	72.8	2002～2004
	ロイヤルデント90H	5.7	7.31	0.2	黄 初	1572	1137	100	26.2	72.3	
上 川 農 試	K D 4 1 7	7.1	7.25	0.5	黄初～中	2095	1498	115	27.3	71.5	2002～2004
	ロイヤルデント90H	7.5	7.21	0.0	黄初～中	1802	1302	100	27.8	72.2	

参照 1) 北海道農政部編, 平成17年普及奨励ならびに指導参考事項, 46-47 (2005)

(9) デュカス (系統名 HK1806) 2006年

登録番号: (北海道) とうもろこし(飼)輸交第37号

セールスポイント

多収で, 耐倒伏性が強く, 初期生育が優れる早生品種である。

来歴 本品種は, ドイツのクラインワンツレーベン育種株式会社が育成した(フリント種×デント種)×デント種の三系交配一代雑種である。2001年にホクレン農業協同組合連合会が導入し, 2003年より「HK1806」の系統名で各種の試験を行い, 2006年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「エマ」より1日遅く、収穫時熟度および雌穂乾物率は「エマ」並である。熟期は「エマ」と同じ早生の早である。
2. 初期生育は「エマ」より優れ、稈長は「エマ」より高く、着雌穂高は「エマ」並かやや高い。耐倒伏性は「エマ」より強い。
3. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」並で「エマ」より強い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」および

「エマ」より強い。

4. 乾物総重、推定TDN収量は「エマ」より多く、乾雌穂重割合は「エマ」より高い。乾物中推定TDN割合は「エマ」よりやや高い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は根釧及び道北地域である。すす紋病抵抗性が十分ではないので、連作を避け、適正な肥培管理を行う。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 ～9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 折 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
天 北 農 試	デ ュ カ ス	7.7	8.11	4.0	黄中後	1,407	1,039	107	32.9	73.8	2003～2005
	エ マ	6.1	8.10	12.3	黄後	1,347	972	100	32.1	72.2	
根 釧 農 試	デ ュ カ ス	6.6	8.12	8.7	糊後～黄初	1,250	901	110	28.1	71.9	
	エ マ	4.7	8.11	32.9	黄初	1,146	817	100	25.4	71.1	
北 見 農 試	デ ュ カ ス	6.0	8. 1	11.6	黄中	1,579	1,164	114	29.8	73.8	
	エ マ	5.8	7.31	30.6	黄中	1,405	1,020	100	26.3	72.6	
十 勝 農 試	デ ュ カ ス	6.6	7.30	1.5	黄中	1,702	1,248	119	31.7	73.3	
	エ マ	4.9	7.30	2.9	黄中	1,453	1,048	100	27.4	72.1	

参照 1) 北海道農政部編，平成18年普及奨励ならびに指導参考事項，22-23（2006）。

(10) TH058（系統名 TH058）2006年

登録番号：（北海道）とうもろこし(飼)輸交第38号

セールスポイント

収量性，耐倒伏性およびすす紋病抵抗性等に優れる中生品種である。

来歴 本品種は，フランスのコサードセメセンス社が育成した単交配（デント×フリント，構成系統は不明）の一代雑種である。2000年にOECD登録された。2001年にタキイ種苗株式会社が導入し，2003年より各種の試験を行い，2006年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期，収穫時熟度および総体乾物率はいずれも「クラリカ」並で，熟期は“中生の中”に属する。

2. 耐倒伏性は「クラリカ」より強い。

3. 発芽期は「クラリカ」並で，初期生育は「クラリカ」並かやや優れる。

4. 乾物総重および推定TDN収量は「クラリカ」より平均で5 %多い。乾雌穂重割合は「クラリカ」並である。

5. 稈長は「クラリカ」よりやや高く，着雌穂高は「クラリカ」よりやや低い。

6. すず紋病抵抗性は「キタユタカ」より強く「クラリカ」よりやや強い。ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」並で「クラリカ」より弱い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は北部を除く道央地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 ～9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 折 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
上 川 農 試	T H 0 5 8	8.1	7.25	0.0	黄中～後	2293	1667	108	32.3	72.7	2003～2005
	ク ラ リ カ	8.0	7.25	55.6	黄中	2106	1542	100	33.0	73.2	
畜 試 滝 川 試 験 地	T H 0 5 8	6.2	8. 6	15.3	黄中	1880	1394	103	29.8	74.2	2003～2005
	ク ラ リ カ	5.7	8. 6	21.3	黄後	1806	1349	100	31.2	74.8	

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 -9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 農 研 セ ン タ ー	T H 0 5 8 ク ラ リ カ	7.7	7.31	46.3	黄中～後	1959	1441	107	33.2	73.5	2003～2005
		7.1	7.31	49.1	黄後	1832	1344	100	32.5	73.4	

参照 1) 北海道農政部編, 平成18年普及奨励ならびに指導参考事項, 24-25 (2006)

(11) DKC34-20 (系統名 SH0481) 2007年
登録番号: (北海道) とうもろこし(飼)輸交第39号

セールスポイント

耐倒伏性, すす紋病抵抗性および収量性等に優れる中
生品種である

来歴 本品種は, フランスのモンサント社が育成した単
交配 (デント×デント, 構成系統は不明) の一代雑種で
ある。2004年にOECD登録された。2002年に雪印種苗株
式会社が導入し, 2004年より各種の試験を行い, 2007年
に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「TH9861」より1日遅く「おおぞら」
より2～3日早い。雄穂開花期は「TH9861」より3
～4日遅く「おおぞら」より1日遅い。収穫時熟度は

「TH9861」よりやや遅れ「おおぞら」並で, 総体乾
物率は「おおぞら」並である。熟期は“中生の中”に
属する。

2. 耐倒伏性は「おおぞら」と同程度だが, 折損は「お
おぞら」より少ない。
3. 発芽期は「おおぞら」並で, 初期生育は「おおぞら」
並かやや劣る。
4. 乾物総重および推定TDN収量は「おおぞら」並で
ある。乾雌穂重割合は「おおぞら」よりやや高い。
5. 稈長および着雌穂高は「おおぞら」よりやや低い。
6. すす紋病抵抗性とごま葉枯病抵抗性は, いずれも
「キタユタカ」および「おおぞら」より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は北部を除く道央地域および道南地域である。
一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 -9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
上 川 農 試	D K C 3 4 - 2 0	8.4	7.26	17.4	黄初～中	2177	1587	102	34.6	72.9	2004～2006
	お お ぞ ら	8.4	7.29	6.3	黄中～後	2168	1555	100	34.8	71.8	
	T H 9 8 6 1	8.4	7.24	12.5	黄中	2027	1494	96	30.8	73.7	
畜 試 滝 川 試 験 地	D K C 3 4 - 2 0	4.9	8. 5	16.4	黄後	1730	1279	103	34.3	73.9	2004～2006
	お お ぞ ら	5.9	8. 8	10.1	黄後	1698	1237	100	33.4	72.9	
	T H 9 8 6 1	5.4	8. 5	11.5	黄後	1700	1267	102	30.8	74.5	
北 農 研 セ ン タ ー	D K C 3 4 - 2 0	7.0	7.29	40.5	黄中～後	1918	1397	100	33.4	72.8	2004～2006
	お お ぞ ら	7.5	7.31	47.7	黄後	1934	1395	100	33.8	72.1	
	T H 9 8 6 1	6.9	7.28	45.7	黄後	1905	1405	101	31.2	73.8	
十 勝 農 試	D K C 3 4 - 2 0	5.4	8. 5	5.4	黄初	1835	1331	104	30.2	72.5	2004～2006
	お お ぞ ら	5.4	8. 7	63.5	黄初	1815	1283	100	29.3	70.7	
	T H 9 8 6 1	5.5	8. 4	20.4	黄初	1721	1267	99	25.9	73.6	

参照 1) 北海道農政部編, 平成19年普及奨励ならびに指導参考事項, 27-28 (2007)

(12) KD500 (系統名 KE3500) 2007年
登録番号: (北海道) とうもろこし(飼)輸交第40号

セールスポイント

総体乾物率がやや高く, 初期生育が良好な中生品種で
ある。

来歴 本品種はドイツのクラインワンツレーベル社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。2002年にカネコ種苗株式会社が導入し、2004年より「KE3500」の系統名で各種の試験を行い、2007年に優良品種となった。2003年にOECD登録されている。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「36B08」並か1日早い。収穫時熟度は「36B08」並で、総体乾物率は「36B08」よりやや高い。熟期は“中生の晩”に属する。
2. 耐倒伏性は「36B08」並である。
3. 発芽期は「36B08」並で、初期生育は「36B08」よ

り優れる。

4. 乾総重及び推定TDN収量は「36B08」並である。乾雌穂重割合、乾物中推定TDN割合は「36B08」並である。
5. 稈長及び着雌穂高は「36B08」より高い。
6. すず紋病抵抗性及びごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」より強く「36B08」より弱い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は北部を除く道央地域、道南地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 - 9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
畜 試 滝 川 試 験 地	K D 5 0 0	6.7	8. 8	9.2	黄後	1960	1435	99	33.9	73.2	2005～2006
	3 6 B 0 8	5.2	8. 9	13.5	黄後	1990	1444	100	31.8	72.6	
北 農 研 セ ン タ ー	K D 5 0 0	7.4	7.31	49.5	黄中－後	2102	1501	103	31.5	71.4	2004～2006
	3 6 B 0 8	6.5	7.31	41.4	黄中	2032	1454	100	29.6	71.6	

参照 1) 北海道農政部編，平成19年普及奨励ならびに指導参考事項，29-30（2007）

(13) 北交65号（系統名 北交65号）2008年

登録番号：（北海道）とうもろこし(飼)北海道交第41号
（農水省）とうもろこし農林交65号
（種苗法）第19600号

セールスポイント

初期生育に優れ、耐倒伏性とすず紋病抵抗性が強い、高消化性の晩生品種である。

来歴 本品種は独立行政法人北海道農業研究センターが、2001年にデント種「Ho102」を種子親，フリント種「Ho95」を花粉親として両親系統間の交配を行い，組合せ能力検定試験および生産力検定試験の後，2004年に「月交604」の系統名を付した。その後，生産力検定試験，系統適応性検定試験および特性検定試験で有望と認め，2005年より「北交65号」の系統名で各種の試験を行い，2008年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「35G86」より1日程度早いが，収穫時熟度および総体乾物率は「35G86」並である。熟期は“晩生の早”に属する。
2. 耐倒伏性は「35G86」より強い。
3. 発芽期は「35G86」より1日早く，初期生育は「35G86」より優れる。
4. 乾物総重および推定TDN収量は「35G86」よりやや少ないが，乾雌穂重割合，乾物中推定TDN割合は「35G86」よりやや高く，消化性に優れる。
5. 稈長及び着雌穂高は「35G86」より低い。
6. すず紋病抵抗性は「3540」より強く，「35G86」並である。ごま葉枯病抵抗性は「3540」より強く，「35G86」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央中部（上川を除く），道央南部および道南地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 - 9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 農 研 セ ン タ ー	北 交 65 号	7.5	8. 4	30.4	黄 中	1942	1409	93	30.8	66.4	2003～2007
	3 5 G 8 6	6.9	8. 5	48.8	黄中－後	2116	1518	100	31.9	63.7	
	3 6 B 0 8	6.6	8. 1	41.4	黄中－後	2025	1465	97	31.4	64.5	

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 - 9 極良)	絹 糸 抽 出 期 (月日)	倒 伏 損 折 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾 物 率 (%)	乾 物 中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
畜 試 滝 川 試 験 地	北 交 65 号	6.6	8.13	24.1	黄中－後	1803	1316	97	30.2	66.7	2005～2007 倒伏折損は 2004
	3 5 G 8 6	5.4	8.14	58.0	黄 中	1870	1359	100	30.7	64.3	
	3 6 B 0 8	5.8	8.12	27.0	黄中－後	1879	1367	101	30.2	64.9	
種子協会支所 (江別市)	北 交 65 号	7.5	8. 7	35.2	黄初－中	2058	1491	95	30.6	66.3	2005～2007
	3 5 G 8 6	6.2	8. 8	35.0	黄初－中	2173	1562	100	31.1	63.8	
	3 6 B 0 8	5.2	8. 6	17.7	黄初－中	1991	1442	92	30.8	64.6	
畜 試	北 交 65 号	6.1	8.12	14.1	黄中－後	1879	1377	97	30.7	67.0	2005～2007
	3 5 G 8 6	4.8	8.13	32.9	黄中－後	1964	1415	100	30.4	63.8	
	3 6 B 0 8	4.9	8.10	11.6	黄中－後	1890	1373	97	29.5	64.8	
道 南 農 試 (八雲町)	北 交 65 号	9.0	8.10	0.0	黄中－後	1976	1427	97	28.3	66.1	2005～2007
	3 5 G 8 6	7.7	8.12	42.5	黄初－中	2049	1465	100	29.9	63.5	
	3 6 B 0 8	8.2	8.10	13.0	黄 中	2060	1477	101	30.9	64.0	

参照 1) 北海道農政部編, 平成20年普及奨励ならびに指導参考事項, 23-25 (2008)

(4) LG3215 (系統名 HE0319) 2008年

登録番号: (北海道)とうもろこし(飼)輪交第44号

セールスポイント

初期生育が優れ, すず紋病およびごま葉枯病抵抗性が強く, 多収な早生品種である。

来歴 フランスのリマグレイン・ベルノイル・ホールディング社が育成した(フリント種×フリント種)×フリント種の三系交配一代雑種である。雪印種苗株式会社が導入し(導入年不詳), 2005年より「HE0319」の系統名で各種の試験を行い, 2008年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「エマ」より2日遅く, 収穫時熟度は「エマ」よりやや進む。雌穂乾物率および総体乾物率は「エマ」よりやや高い。熟期は“早生の早”に属する。

2. 耐倒伏性は, 根釰地域では「エマ」より劣り, 他地域では「エマ」並である。

3. 発芽期は「エマ」より2日早く, 初期生育は「エマ」より優れる。

4. 乾物総重, 推定TDN収量は「エマ」より多い。乾雌穂重割合は「エマ」より高く, 乾物中推定TDN割合は「エマ」並である。

5. 稈長は「エマ」より高く, 着雌穂高は「エマ」よりやや高い。

6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」および「エマ」より強い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」および「エマ」より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道北地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 - 9 極良)	絹 糸 抽 出 期 (月日)	倒 伏 損 折 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾 物 率 (%)	乾 物 中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	L G 3 2 1 5	6.3	8. 4	—	黄 後	1687	1225	114	31.9	72.7	2005～2007
	エ マ	5.9	8. 1	—	黄 中	1486	1079	100	30.6	72.7	
十 勝 農 試	L G 3 2 1 5	6.5	8. 4	3.0	黄中～後	1665	1211	125	31.7	72.7	2005～2007
	エ マ	4.1	8. 1	3.0	黄中～後	1330	970	100	29.7	73.0	
根 釰 農 試	L G 3 2 1 5	6.8	8.14	52.3	黄 後	1356	993	119	30.7	73.7	2005～2007
	エ マ	4.5	8.12	30.4	黄 中	1152	836	100	28.1	72.8	
上 川 農 試 天 北 支 場	L G 3 2 1 5	7.7	8.11	1.8	黄中～後	1348	1001	113	32.7	74.3	2005～2007
	エ マ	6.0	8. 9	3.0	黄 中	1206	886	100	31.9	73.5	

参照 1) 北海道農政部編, 平成20年普及奨励ならびに指導参考事項, 26-27 (2008)

(15) クウイス（系統名 HK4803 ）2008年

登録番号：（北海道）とうもろこし(飼)輪交第42号

セールスポイント

多収で雌穂の乾物率が高く、すす紋病抵抗性に優れる。

来歴 本品種はドイツのクラインワンツレーベン社が育成したフリント種×デント種の単交配一代雑種である。2004年にホクレン農業協同組合連合会が導入し、2005年より「HK4803」の系統名で各種の試験が行われ、2008年に北海道優良品種となった。2005年にOECD登録されている。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「エマ」と同日であるが、収穫時熟度は「エマ」よりやや進む。総体乾物率は「エマ」より高い。熟期は“早生の早”に属する。
2. 耐倒伏性は「エマ」並である。
3. 初期生育は「エマ」より優れる。
4. 乾物総重および推定TDN収量は「エマ」より多い。乾物中推定TDN割合は「エマ」並である。
5. 稈長及び着雌穂高は「エマ」より高い。
6. すず紋病抵抗性およびごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」および「エマ」より優れる。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は根釧および道北地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 - 9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
根 釧 農 試	ク ウ ィ ス エ マ	6.7	8.12	28.5	黄熟中期	1302	961	115	31.5	74.0	2005～2007
		4.5	8.13	30.4	黄熟中期	1152	836	100	28.1	72.8	
上 川 農 試 天 北 支 場	ク ウ ィ ス エ マ	7.9	8. 9	1.5	黄中～後	1344	987	111	36.3	73.8	2005～2007
		6.0	8. 9	3.0	黄熟中期	1206	886	100	31.9	73.5	

参照 1) 北海道農政部編，平成20年普及奨励ならびに指導参考事項，28-29（2008）

(16) 34N84（系統名 X1091M）2008年

登録番号：（北海道）とうもろこし(飼)輪交第43号

セールスポイント

耐倒伏性、乾雌穂重割合、初期生育にやや優れる晩生品種である。

来歴 本品種は本品種は米国のパイオニア社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。2003年にOECD登録されており、同年、ホクレン農業協同組合連合会が導入し、2005年より「X1091M」の系統名で各種の試験を行い、2008年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「35G86」より1日早い。収穫時熟度

及び総体乾物率は「35G86」並である。熟期は“晩生の早”に属する。

2. 耐倒伏性は「35G86」よりやや強い。
3. 発芽期は「35G86」並で、初期生育は「35G86」よりやや優れる。
4. 乾物総重及び推定TDN収量は「35G86」並である。乾雌穂重割合は「35G86」よりやや高い。乾物中推定TDN割合は「35G86」よりやや高い。
5. 稈長及び着雌穂高は「35G86」よりやや低い。
6. すず紋病抵抗性及びごま葉枯病抵抗性は「3540」より強く、「35G86」よりやや弱い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央中部（上川を除く）、道央南部および道南地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 - 9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
畜 試 滝 川 試 験 地	3 4 N 8 4	5.8	8.13	0.0	黄 中	1953	1428	105	30.0	73.1	2005～2007
	3 5 G 8 6	5.4	8.14	0.0	黄 中	1871	1359	100	30.7	72.6	
北 海 道 農 研	3 4 N 8 4	6.8	8. 3	0.5	黄 中	2167	1570	102	31.4	72.5	2005～2007
	3 5 G 8 6	6.2	8. 4	0.0	黄 中	2151	1544	100	31.7	71.8	

参照 1) 北海道農政部編, 平成20年普及奨励ならびに指導参考事項, 30-31 (2008)

(17) **LG3520** (系統名 HE0374) 2008年

登録番号: (北海道) とうもろこし(飼)輪交第45号

セールスポイント

多収で, 初期生育に優れる晩生品種である。

来歴 本品種はフランスのリマグレイン社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。2003年に雪印種苗株式会社が導入し, 2005年より「HE0374」の系統名で各種の試験を行い, 2008年に優良品種となった。2005年にOECD登録されている。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「3540」より1日早く, 収穫時熟度は「3540」よりやや進むが, 総体乾物率は「3540」並で

ある。熟期は“晩生の中”に属する。

2. 耐倒伏性は「3540」よりやや弱い。
3. 発芽期は「3540」並で初期生育は「3540」よりやや優れる。
4. 乾物総重は「3540」よりやや高く, 推定TDN収量は「3540」より高い。乾雌穂重割合は「3540」よりやや高い。乾物中推定TDN割合は「3540」並である。
5. 稈長は「3540」より高い。着雌穂高は「3540」並である。
6. すず紋病抵抗性は「3540」より強い。ごま葉枯病抵抗性は「3540」よりやや強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央中部(上川を除く), 道央南部および道南地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 - 9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
畜 試 滝 川 試 験 地	L G 3 5 2 0	4.9	8.15	0.0	黄中-後	1946	1407	108	28.9	72.2	2005~2007
	3 5 4 0	4.5	8.16	0.0	黄 中	1810	1305	100	27.7	72.1	
北 海 道 農 研	L G 3 5 2 0	7.2	8. 4	0.0	黄 中	2170	1559	106	29.0	71.9	2005~2007
	3 5 4 0	5.9	8. 6	0.0	黄 中	2062	1475	100	29.9	71.6	

参照 1) 北海道農政部編, 平成20年普及奨励ならびに指導参考事項, 32-33 (2008)

(18) **たちぴりか** (系統名 北交66号) 2009年

登録番号: (北海道) とうもろこし(飼)北海道交第46号
(農水省) とうもろこし農林交67号
(種苗法) 第23843号

セールスポイント

雌穂収量および乾雌穂重割合が高く, さらに耐倒伏性およびすず紋病抵抗性に優れる。

来歴 2001年に「Ho87」を種子親とし, 「Ho90」を花粉親として両親系統間の交配を行い, 2002年に生産力検定予備試験, 2004年に「月交606」の系統番号を付して生産力検定試験を行った。また, 2004年以降, 系統適応性検定試験, 病害抵抗性と耐冷性の特性検定試験, 奨励品種決定試験および地域適応性検定試験を行って有望と認められたので, 2006年に「北交66号」の系統名を付し, 2008年までこれらの試験を継続してその優秀性を確認した。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「エマ」並で, 収穫時熟度も「エマ」並, 総体乾物率は「エマ」より高い。熟期は“早生の中”に属する。
2. 耐倒伏性は「エマ」より優れる。
3. 初期生育は「エマ」より優れる。
4. 乾物総重および推定TDN収量は「エマ」並である。乾雌穂重が多く, 乾雌穂重割合は「エマ」より高い。
5. すず紋病抵抗性は“極強”で, 「ダイヘイゲン」および「エマ」より優れる。ごま葉枯病抵抗性は“強”で, 「ダイヘイゲン」および「エマ」より優れる。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は根釧および道北地域である。栽植密度は, 10アールあたり8500~9200本程度とする。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1 極不良 - 9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
根 釧 農 試	た ち び り か	7.1	8.13	15.8	黄熟中期	1181	791	98	31.3	67.0	2005～2008
	エ マ	4.5	8.13	30.5	黄熟中期	1200	805	100	27.2	67.1	
上 川 農 試 天 北 支 場	た ち び り か	7.3	8.10	0.4	黄熟中期	1136	772	98	33.8	68.0	2005～2008
	エ マ	5.7	8.10	3.0	黄熟中期	1165	790	100	30.2	67.8	

参照 1) 北海道農政部編, 平成21年普及奨励ならびに指導参考事項, 18-20 (2009)

(19) 39T45 (系統名 X0842K) 2009年

登録番号: (北海道) とうもろこし(飼)輸交第47号

セールスポイント

初期生育, 耐倒伏性に優れ, すず紋病抵抗性がやや強く, 多収な早生品種である。

来歴 本品種は, アメリカのパイオニア社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。ホクレン農業協同組合連合会が導入し (導入年不詳), 2005年より「X0842K」の系統名で各種の試験を行い, 2009年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は農試平均で「ネオ85」より1日早く, 現地平均で「ネオ85」より2日早く, 収穫時熟度は「ネオ85」並で, 雌穂乾物率が「ネオ85」より高く,

総体乾物率は「ネオ85」並である。熟期は“早生の晩”に属する。

2. 耐倒伏性は「ネオ85」よりやや優れる。
3. 発芽期は農試平均で「ネオ85」より4日早く, 現地平均で「ネオ85」より2日早い。初期生育は「ネオ85」より優れる。
4. 乾物総重および推定TDN収量は「ネオ85」より多い。乾雌穂重割合および乾物中推定TDN割合は「ネオ85」並である。
5. 稈長および着雌穂高は「ネオ85」より高い。
6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く, 「ネオ85」よりやや強い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く, 「ネオ85」よりやや弱い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部, 十勝中部および網走内陸地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1 極不良 - 9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	3 9 T 4 5	5.8	8. 8	—	黄 初	1839	1315	109	26.8	71.9	2005～ 2006, 2008
	ネ オ 85	4.2	8. 9	—	黄 初	1683	1205	100	26.5	71.7	
十 勝 農 試	3 9 T 4 5	5.5	8. 8	0.3	黄 初	1836	1331	107	28.8	72.5	2005～2006
	ネ オ 85	4.0	8. 8	0.7	黄 中	1712	1246	100	29.9	72.8	

参照 1) 北海道農政部編, 平成21年普及奨励ならびに指導参考事項, 21-22 (2009)

(20) ビエナ (系統名 TH338) 2009年

登録番号: (北海道) とうもろこし(飼)輸交第48号

セールスポイント

初期生育に優れ, 多収な早生品種である。

来歴 ドイツのクラインワッツレーベン育種株式会社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。タキイ種苗株式会社が導入し (導入年不詳), 2004年から「TH338」の系統名で各種の試験を行い, 2009年に

優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ネオ85」より2日早く, 収穫時熟度, 雌穂乾物率および総体乾物率は「ネオ85」並である。熟期は“早生の晩”に属する。
2. 耐倒伏性は「ネオ85」並である。
3. 発芽期は農試平均で「ネオ85」より3日早く, 現地平均で「ネオ85」より2日早い。初期生育は「ネオ85」より優れる。

- 乾物総重，推定TDN収量は「ネオ85」よりやや多い。乾雌穂重割合は「ネオ85」よりやや高く，乾物中推定TDN割合は「ネオ85」並である。
- 稈長は「ネオ85」よりやや高く，着雌穂高は「ネオ85」より高い。
- すす紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く，「ネ

オ85」並である。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く，「ネオ85」よりやや弱い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部，十勝中部および網走内陸地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 ～9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	ビ エ ナ ネ オ 85	5.8	8. 7	—	黄 初	1857	1328	108	26.2	71.5	2005, 2007 ～2008
		3.8	8. 9	—	黄 初	1724	1225	100	26.5	71.1	
十 勝 農 試	ビ エ ナ ネ オ 85	6.0	8. 5	1.0	黄初～中	1859	1361	106	30.9	73.2	2005, 2007
		3.7	8. 7	0.7	黄 中	1751	1284	100	31.0	73.3	

参照 1) 北海道農政部編，平成21年普及奨励ならびに指導参考事項，23-24（2009）

21) KD418（系統名KE5401）2009年

登録番号：（北海道）とうもろこし(飼)輸交第49号

セールスポイント

多収で，初期生育に優れる早生品種である。

来歴 本品種はドイツのクラインワンツレーベル社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。2005年にカネコ種苗株式会社が導入し，2005年より「K E5401」の系統名で各種の試験を行い，2009年に優良品種となった。2006年にOECD登録されている。

特性概要

- 絹糸抽出期は「ネオ85」より1～3日早く，収穫時熟度は「ネオ85」並である。雌穂乾物率は「ネオ85」並かやや低く，総体乾物率は「ネオ85」並である。熟

期は早生の晩に属する。

- 耐倒伏性は「ネオ85」並である。
- 発芽期は「ネオ85」より1～2日早く，初期生育は「ネオ85」より優る。
- 乾物総重及び推定TDN収量は「ネオ85」より多い。乾雌穂重割合及び乾物中推定TDN割合は「ネオ85」並である。
- 稈長及び着雌穂高は「ネオ85」より高い。
- すす紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや強く，「ネオ85」よりやや弱い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く，「ネオ85」より弱い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部，十勝中部及び網走内陸地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 ～9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	K D 4 1 8 ネ オ 85	4.7	8. 7	—	黄初	1915	1398	113	29.1	73.0	2006～2007
		3.4	8. 8	—	黄中	1688	1239	100	29.9	73.4	
十 勝 農 試	K D 4 1 8 ネ オ 85	6.4	8. 9	—	黄初	1981	1406	111	27.3	71.1	2006～2008
		4.3	8.10	—	黄初	1774	1268	100	28.2	71.5	

参照 1) 北海道農政部編，平成21年普及奨励ならびに指導参考事項，25-26（2009）

22) 33N29（系統名 33N29）2009年

登録番号：（北海道）とうもろこし(飼)輸交第50号

セールスポイント

多収で，すす紋病にやや強い晩生品種である。

来歴 本品種は米国のパイオニア社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種で，2004年にOECD登録された。2004年にホクレン農業協同組合連合会が導入し，2006年より各種の試験を行い，2009年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「3540」並であるが、雄穂開花期は「3540」より2日遅い。収穫時熟度は「3540」よりやや遅れ、総体乾物率は「3540」よりやや低い。熟期は“晩生の中”に属する。
2. 耐倒伏性は「3540」並である。
3. 発芽期及び初期生育は「3540」並である。
4. 乾物総重及び推定TDN収量は「3540」よりやや高い。乾雌穂重割合は「3540」より並である。乾物中推

定TDN割合は「3540」並である。

5. 稈長は「3540」より高い。着雌穂高は「3540」並である。
6. すず紋病抵抗性は「3540」より強い。ごま葉枯病抵抗性は「3540」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央中部（上川を除く）、道央南部および道南地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1極不良 ～9極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 折 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
畜 試 滝川試験地	3 3 N 2 9	5.3	8.15	0.0	黄中－後	2103	1508	107	28.1	71.8	2006～2008
	3 5 4 0	5.0	8.15	0.0	黄中－後	1966	1409	100	28.2	71.7	
北 農 研 セ ン タ ー	3 3 N 2 9	5.4	8. 6	0.0	黄初－中	2263	1616	110	28.1	71.4	2006～2008
	3 5 4 0	5.6	8. 6	0.0	黄 中	2071	1474	100	29.5	71.3	

参照 1) 北海道農政部編，平成21年普及奨励ならびに指導参考事項，27-28（2009）

23) 39T13（系統名 X0823F）2010年

登録番号：（北海道）とうもろこし(飼)輸交第51号

セールスポイント

すず紋病耐病性が強く、乾物総重および推定TDN収量が多く、初期生育に優れる早生品種である。

来歴 本品種は米国のパイオニア社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。2003年にホクレン農業協同組合連合会が導入し、2006年にOECD登録された。2007年より「X0823F」の系統名で各種の試験を行い、2010年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ネオ85」より1～3日早く、収穫時熟度は「ネオ85」並かやや遅れる。雌穂乾物率は「ネ

オ85」より高く、総体乾物率は「ネオ85」並である。熟期は“早生の晩”に属する。

2. 耐倒伏性は「ネオ85」並である。
3. 発芽期及び初期生育は発芽期は「ネオ85」より1～2日早く、初期生育は「ネオ85」より優る。
4. 乾物総重および推定TDN収量は「ネオ85」より多い。乾雌穂重割合は「ネオ85」並かやや高く、乾物中推定TDN割合は「ネオ85」並である。
5. 稈長および着雌穂高は「ネオ85」より高い。
6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」、 「ネオ85」より強い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く、「ネオ85」より弱い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部，網走内陸及び道央北部である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1極不良 ～9極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 折 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	3 9 T 1 3	6.3	8. 8	—	黄 初	1775	1290	107	28.8	72.6	2007
	ネ オ 85	3.7	8. 9	—	黄初－中	1649	1201	100	28.7	72.8	
十 勝 牧 場	3 9 T 1 3	8.9	8. 8	—	乳後－糊初	1853	1291	114	21.9	69.7	2009
	ネ オ 85	8.9	8. 8	—	糊中－後	1604	1132	100	22.7	70.5	
北 見 農 試	3 9 T 1 3	6.4	8. 9	—	黄 初	1852	1310	105	26.3	70.8	2007～2009
	ネ オ 85	5.0	8.10	—	黄 初	1775	1250	100	27.0	70.5	

参照 1) 北海道農政部編，平成22年普及奨励ならびに指導参考事項，32-33（2010）

24) **KD301**（系統名 KD301 ）2011年
登録番号：（北海道）とうもろこし(飼)輸交第53号

セールスポイント

乾雌穂重割合がやや高い早生品種である。

来歴 本品種はドイツのクラインワンツレーベル社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種で、2005年にOECD登録されている。2006年にカネコ種苗株式会社が導入し、2008年より各種の試験を行い、2011年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「チベリウス」並～1日早い。総体乾物率及び雌穂乾物率は「チベリウス」よりやや高い。収穫時熟度は「チベリウス」並～やや進む。熟期は

- “早生の中”に属する。
2. 耐倒伏性は「チベリウス」並である。
 3. 発芽期は「チベリウス」並～1日早く、初期生育は「チベリウス」並である。
 4. 乾物総重及び推定TDN収量は「チベリウス」並であり、乾雌穂重割合及び乾物中推定TDN割合は「チベリウス」よりやや高い。
 5. 稈長は「チベリウス」よりやや低いが、着雌穂高は「チベリウス」並。
 6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「チベリウス」よりやや強い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く、「チベリウス」より弱い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部、十勝および網走地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1極不良 ～9極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 折 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	K D 3 0 1	7.0	8. 1	0.3	黄 中	2073	1494	105	34.8	72.1	2008
	チ ベ リ ウ ス	6.0	8. 3	0.0	黄 初	1959	1424	100	29.8	72.7	
畜 試	K D 3 0 1	7.5	8. 3	—	糊 後	1474	1069	98	30.0	72.2	2009～2010
	チ ベ リ ウ ス	7.5	8. 3	—	糊後－黄初	1518	1087	100	30.2	71.3	
北 見 農 試	K D 3 0 1	5.9	8. 4	—	黄初－中	1912	1372	99	29.1	71.7	2008～2010
	チ ベ リ ウ ス	5.9	8. 4	—	黄初－中	1950	1387	100	29.2	71.1	

参照 1) 北海道農政部編，平成23年普及奨励ならびに指導参考事項，21-22（2011）

25) **きよら**（系統名 北交70号）2011年
登録番号：（北海道）とうもろこし(飼)北海道交第52号
（農水省）とうもろこし農林交70号
（種苗法）第26312号

セールスポイント

すず紋病耐病性が強く、発芽初期生育が良好な中生品種である。

来歴 本品種は独立行政法人北海道農業研究センターが、すず紋病抵抗性と、初期生育に優れた中生品種の育成を目標に、「Ho112」を種子親、「Ho100」を花粉親として育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。2005年より「北交70号」の系統名で各種の試験を行い、2011年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ブリザック」とほぼ同日で、雌穂乾

- 物率は「ブリザック」とほぼ同じ、総体乾物率は「ブリザック」よりやや高い。収穫時熟度は「ブリザック」並かやや遅れる。熟期は中生の早に属する。
2. 耐倒伏性は「ブリザック」並である。
 3. 発芽期は「ブリザック」より1日早く、初期生育は「ブリザック」より優れる。
 4. 乾物総重及び推定TDN収量は「ブリザック」並かやや少ない。乾雌穂重割合及び乾物中推定TDN割合は「ブリザック」並である。
 5. 稈長は「ブリザック」よりやや低く、着雌穂高は「ブリザック」並。
 6. すず紋病抵抗性は「クタユタカ」より強く「ブリザック」よりやや強い。ごま葉枯病抵抗性は「クタユタカ」および「ブリザック」より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部、十勝中部および網走内陸の気象条件の良好な地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 - 9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	き よ ら	6.5	8.5	—	糊後—黄初	1762	1282	100	28.7	72.8	2007～2008
	ブ リ ザ ッ ク	5.0	8.6	—	糊後—黄初	1759	1278	100	25.9	72.7	
北 見 農 試	き よ ら	6.6	8.7	—	糊後—黄初	1807	1281	95	27.4	70.9	2008～2010
	ブ リ ザ ッ ク	5.9	8.6	—	糊後—黄初	1909	1350	100	26.1	70.6	
上 川 農 試	き よ ら	8.7	7.24	0.0	黄初—中	2045	1493	100	34.4	73.0	2007～2010
	ブ リ ザ ッ ク	7.7	7.25	2.9	黄 中	2046	1493	100	32.3	72.8	
十 勝 牧 場	き よ ら	8.2	8.5	—	糊初—中	1751	1270	102	25.4	72.4	2008～2010
	ブ リ ザ ッ ク	7.6	8.5	—	糊 中	1713	1247	100	24.4	72.8	

参照 1) 北海道農政部編, 平成23年普及奨励ならびに指導参考事項, 23-25 (2011)

②6 メルクリオ (系統名 HK7705) 2012年

登録番号: (北海道) とうもろこし(飼)輸交第54号

セールスポイント

多収な早生品種である。

来歴 ドイツのクラインワンツレーベン育種株式会社が育成した(フロント種×デント種)×デント種の三系交配一代雑種である。2007年にホクレン農業協同組合連合会が導入し, 2009年より「HK7705」の系統名で各種の試験を行い, 2012年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「チベリウス」より1日遅く, 収穫時熟度は「チベリウス」並である。雌穂乾物率は「チベリウス」よりやや低く, 総体乾物率は「チベリウス」並～やや高い。熟期は“早生の中”に属する。

2. 耐倒伏性は「チベリウス」並である。

3. 発芽期は「チベリウス」並～1日早く, 初期生育は「チベリウス」並である。

4. 乾物総重および推定TDN収量は, 農試で「チベリウス」よりやや多く, 現地で「チベリウス」よりやや少なく, 総じて「チベリウス」よりやや多い。乾雌穂重割合は「チベリウス」並～やや低く, 乾物中推定TDN割合は「チベリウス」並である。

5. 稈長, 着雌穂高は「チベリウス」並である。

6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」, 「チベリウス」よりやや強い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く, 「チベリウス」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部, 十勝および網走地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 - 9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	メ ル ク リ オ	5.8	8.3	—	黄 初	2123	1518	104	30.9	71.4	2009～2011
	チ ベ リ ウ ス	5.9	8.2	—	黄初～中	2023	1453	100	30.2	71.8	
十 勝 農 試	メ ル ク リ オ	7.9	8.2	0.2	黄 初	1540	1117	103	30.7	72.1	2009～2011
	チ ベ リ ウ ス	7.6	8.2	0.2	糊後～黄初	1502	1087	100	30.7	71.9	

参照 1) 北海道農政部編, 平成24年普及奨励ならびに指導参考事項, 29-30 (2012)

②7 KD320 (系統名 KE8340) 2012年

登録番号: (北海道) とうもろこし(飼)輸交第55号

セールスポイント

やや多収で, すず紋病に強い早生品種である。

来歴 本品種はドイツのクラインワンツレーベル社が育成したデント種×フロント種の単交配一代雑種である。2007年にOECD登録されており, 同年, カネコ種苗株式会社を導入し, 2008年より「KE8340」の系統名で各種の試験を行い, 2012年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「チベリウス」とほぼ同日である。総体乾物率は「チベリウス」とほぼ同程度、雌穂乾物率は「チベリウス」並かやや高い。収穫時熟度は「チベリウス」とほぼ同程度である。熟期は“早生の中”に属する。
2. 耐倒伏性は「チベリウス」並である。
3. 発芽期及び初期生育はともに「チベリウス」並である。
4. 乾物総重及び推定TDN収量は「チベリウス」よりやや多収である。乾雌穂重割合は「チベリウス」より

- やや低い。乾物中推定TDN割合は「チベリウス」並である。
5. 稈長は「チベリウス」よりやや低いが、着雌穂高は高い。
 6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」や「チベリウス」より強い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く、「チベリウス」とほぼ同程度である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部，十勝および網走地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 ～ 9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 損 傷 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	K D 3 2 0	5.4	8. 2	4.4	黄 初	2023	1444	99	29.5	71.3	2008～2010
	チ ベ リ ウ ス	5.9	8. 2	0.0	黄初～中	2023	1453	100	30.2	71.8	
畜 試	K D 3 2 0	8.0	8. 1	0.0	黄 初	1589	1138	105	30.4	71.2	2008～2010
	チ ベ リ ウ ス	7.6	8. 2	0.4	糊後～黄初	1502	1087	100	30.7	71.9	

参照 1) 北海道農政部編，平成24年普及奨励ならびに指導参考事項，31-32（2012）

28) LG3235（系統名 HE0721）2012年

登録番号：（北海道）とうもろこし(飼)輸交第56号

セールスポイント

やや多収な中生品種である。

来歴 本品種は，フランスのリマグレイン社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。2007年に雪印種苗株式会社が導入し，2008年より「HE0721」の系統名で各種の試験を行い，2012年に優良品種となった。

2. 耐倒伏性は「ブリザック」並である。
3. 発芽期は「ブリザック」より1～2日早く，初期生育は「ブリザック」よりやや優れる。
4. 乾物総重及び推定TDN収量はともに「ブリザック」よりやや多い。乾雌穂重割合及び乾物中推定TDN割合は「ブリザック」並である。
5. 稈長は「ブリザック」並，着雌穂高は「ブリザック」より高い。
6. すず紋病抵抗性は「キタユタカ」よりやや強く，「ブリザック」より弱い。ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」よりやや弱く，「ブリザック」並。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ブリザック」と同日である。収穫時熟度及び総体乾物率は「ブリザック」並であり，熟期は“中生の早”に属する。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部，十勝中部および網走内陸地域の気象条件の良好な地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 ～ 9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 損 傷 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	L G 3 2 3 5	6.3	8. 5	—	黄 初	2100	1496	105	28.7	71.2	2008～2010
	ブ リ ザ ッ ク	5.7	8. 5	—	黄 初	2000	1428	100	27.6	71.3	
十 勝 牧 場	L G 3 2 3 5	4.7	8. 2	1.7	糊 後	2055	1510	108	30.7	73.5	2009～2010
	ブ リ ザ ッ ク	5.7	7.31	0.0	糊後～黄初	1888	1395	100	31.3	73.6	

参照 1) 北海道農政部編，平成24年普及奨励ならびに指導参考事項，33-34（2012）

(29) **SH0702** (系統名 SHC0702) 2012年
登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)北海道交第57号

セールスポイント

推定TDN収量が多く、乾雌穂重割合、乾物中推定TDN割合が高い、晩生品種である。

来歴 本品種は雪印種苗株式会社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。2009年より「SHC0702」の系統名で各種の試験を行い、2012年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「LG3520」並である。収穫時熟度は「LG3520」並で、総体乾物率は「LG3520」よりやや

高い。熟期は“晩生の中”に属する。
2. 耐倒伏性は「LG3520」よりやや強い。
3. 発芽期は「LG3520」よりやや遅く、初期生育は「LG3520」よりやや劣る。
4. 乾物総重は「LG3520」よりやや多く、推定TDN収量は「LG3520」より多い。乾雌穂重割合、乾物中推定TDN割合は「LG3520」より高い。
5. 稈長及び着雌穂高は「LG3520」よりやや低い。
6. すず紋病抵抗性は「3540」より強く、「LG3520」よりやや弱い。ごま葉枯病抵抗性は「3540」および「LG3520」より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央中部（上川を除く）、道央南部および道南地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1極不良 -9極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 折 損 (%)	収穫時 熟 度	10a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 農 研 セ ン タ ー	S C H 0 7 0 2	4.7	8.3	1.8	黄 中	2179	1586	105	28.8	72.8	2009～2011
	L G 3 5 2 0	6.0	8.3	10.0	黄 中	2160	1511	100	27.4	69.9	
畜 試 滝川試験地	S C H 0 7 0 2	5.3	8.9	1.4	黄 中	1999	1431	101	26.0	71.6	2009
	L G 3 5 2 0	5.0	8.10	0.7	黄 中	2033	1421	100	25.5	69.9	
道 南 農 試 (八雲町)	S C H 0 7 0 2	8.0	8.8	0.4	黄 中	2065	1504	110	28.5	72.9	2010～2011
	L G 3 5 2 0	9.0	8.8	2.3	黄 中	1928	1371	100	26.2	70.6	

参照 1) 北海道農政部編、平成24年普及奨励ならびに指導参考事項、35-36 (2012)

(30) **ソリードAnjou227** (系統名 HE91003) 2013年
登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)輸交第58号

セールスポイント

収量が多く、すず紋病に強い。絹糸抽出期は遅いが登熟は速い特性を持つ早生品種である。

来歴 本品種は、フランスのリマグレイン社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。2009年に雪印種苗株式会社が導入し、2011年より「HE91003」の系統名で各種の試験を行い、2013年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「デュカス」より3日遅い。収穫時熟度はやや遅れる。しかし、乾物率は茎葉、雌穂ならび

に総体のいずれも「デュカス」に近い。熟期は“早生の早”に属する。
2. 耐倒伏性は「デュカス」並である。
3. 発芽期は「デュカス」より1日早く、初期生育は「デュカス」並である。
4. 乾物総重及び推定TDN収量はともに「デュカス」より多い。乾雌穂重割合及び乾物中推定TDN割合は「デュカス」よりやや低い。
5. 稈長、着雌穂高とも「デュカス」より高い。
6. すず紋病抵抗性及びごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「デュカス」より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は根釧および道北地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 -9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
根 釧 農 試	ソリード Anjou227	6.0	8.12	27.5	黄初一中	1551	1113	117	28.3	71.8	2009～2011
	デ ュ カ ス	5.6	8.10	35.8	黄 中	1305	952	100	29.2	73.0	
上 川 農 試 天 北 支 場	ソリード Anjou227	6.3	8.17	5.0	黄初一中	1492	1067	106	27.5	71.5	2010～2011
	デ ュ カ ス	6.7	8.13	0.0	黄 中	1381	1005	100	28.4	72.8	

参照 1) 北海道農政部編, 平成25年普及奨励ならびに指導参考事項, 14-15 (2013)

③1 KD254 (系統名KE8301) 2013年

登録番号: (北海道) とうもろこし(飼)輸交第59号

セールスポイント

すす紋病, 耐倒伏性にやや優れ, 多収で乾雌穂重割合がやや高い。

来歴 本品種はドイツのクラインワンツレーベン社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。2008年にカネコ種苗株式会社が導入し, 同年より「KE8301」の系統名で各種の試験を行い, 2013年に北海道優良品種となった。2009年にOECD登録されている。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「デュカス」より1～2日遅いが, 収穫時熟度および総体乾物率は「デュカス」並である。熟期は“早生の早”に属する。
2. 耐倒伏性は「デュカス」よりやや優れる。

3. 初期生育は「デュカス」と同程度かやや劣る。

4. 乾物総重および推定TDN収量は「デュカス」より多い。乾雌穂重割合は「デュカス」よりやや高く, 乾物中推定TDN割合は「デュカス」並かやや高い。

5. 稈長および着雌穂高は「デュカス」よりやや高い。

6. すす紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」および「デュカス」よりやや優れる。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや優れ, 「デュカス」よりやや劣る。収穫時の節間空洞および収穫後刈り残し個体の萎凋症状の発現個体率は, 「デュカス」よりやや大きい。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は根釧および道北地域である。一般栽培に準じて栽培できるが, 根腐病の病徴である節間空洞, 萎凋症状が対照品種に比べてやや多いため, 登熟期には圃場内部を観察し, そうした症状の発生がみられた場合には, できるだけ早く収穫する。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 -9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
根 釧 農 試	K D 2 5 4	4.9	8.11	5.9	黄熟初期	1409	1036	109	29.4	73.6	2010～2012
	デ ュ カ ス	5.6	8.10	18.0	黄熟中期	1305	952	100	29.2	73.0	
上 川 農 試 天 北 支 場	K D 2 5 4	6.7	8.14	—	黄熟初期	1428	1054	105	28.1	73.8	2011～2012
	デ ュ カ ス	6.7	8.13	—	黄熟中期	1381	1005	100	28.4	72.8	

参照 1) 北海道農政部編, 平成25年普及奨励ならびに指導参考事項, 16-17 (2013)

③2 P8284 (系統名 X8T126) 2013年

登録番号: (北海道) とうもろこし(飼)輸交第60号

セールスポイント

耐倒伏性に優れ, すす紋病抵抗性にやや優れる早生品種である。

来歴 アメリカのパイオニア社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。2009年にホクレン農

業協同組合連合会が導入し, 2010年より「X8T126」の系統名で各種の試験を行い, 2013年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「KD418」並～2日遅い。収穫時熟度は北見農試で「KD418」よりやや進み, 遠軽町で「KD418」よりやや遅れたが, 総じて「KD418」並である。雌穂乾物率は「KD418」より高く, 総体乾物率は「KD418」並である。熟期は“早生の晩”に属す

- る。
- 耐倒伏性は「KD418」より優れる。
 - 発芽期は「KD418」並で、初期生育は「KD418」並である。
 - 乾物総重および推定TDN収量は「KD418」並である。乾雌穂重割合は「KD418」よりやや低く、乾物中推定TDN割合は「KD418」並である。
 - 稈長は「KD418」並かやや高く、着雌穂高は「KD418」並である。

- すす紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く、「KD418」よりやや強い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く、「KD418」並である。根腐病の病徴発現個体率は並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部、十勝中部および網走内陸地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 ～ 9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 折 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	P 8 2 8 4	6.0	8. 5	0.0	黄 初	2259	1607	102	28.7	71.1	2010～2012
	K D 4 1 8	5.6	8. 5	3.2	糊後～黄初	2196	1571	100	28.4	71.6	

参照 1) 北海道農政部編, 平成25年普及奨励ならびに指導参考事項, 18-19 (2013)

③ SL0746 (系統名 SL0746) 2013年

登録番号: (北海道)とうもろこし(飼)北海道交第61号

セールスポイント

乾雌穂重割合が高く、乾物総重および推定TDN収量がやや多い中生品種である。

来歴 本品種は、雪印種苗株式会社が2007年に育成した単交配（デント×フリント、構成系統は不明）の一代雑種である。2010年より各種の試験を行い、2013年に優良品種となった。

特性概要

- 絹糸抽出期は「おおぞら」より3日早く、雄穂開花期は1日早い。雌穂の熟度は「おおぞら」よりやや遅れ、総体乾物率は「おおぞら」よりやや低い。熟期は

“中生の中”に属する。

- 耐倒伏性は「おおぞら」並である。
- 発芽期および初期生育は「おおぞら」並である。
- 乾物総重および推定TDN収量は「おおぞら」よりやや多い。乾雌穂重割合は「おおぞら」より高い。
- 稈長および着雌穂高は「おおぞら」より低い。
- すす紋病抵抗性は「キタユタカ」より強く「おおぞら」並である。ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」並かやや強く「おおぞら」並である。収穫時の節間空洞や刈り残し個体の萎凋個体率は「おおぞら」よりやや少ない。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は北部を除く道央地域および道南地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 ～ 9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 折 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
上 川 農 試	S L 0 7 4 6	8.0	7.25	0.5	黄中～後	2209	1593	107	34.7	72.2	2010～2012
	お お ぞ ら	7.3	7.29	2.2	黄 後	2094	1482	100	35.2	70.8	
北 農 研 セ ン タ ー	S L 0 7 4 6	5.6	7.25	4.4	黄 中	1983	1437	101	29.6	72.5	2010～2012
	お お ぞ ら	5.9	7.28	1.3	黄 後	1969	1420	100	33.4	72.1	

参照 1) 北海道農政部編, 平成25年普及奨励ならびに指導参考事項, 20-21 (2013)

③4) **P9400** (系統名 X6P942) 2013年
登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)輸交第62号

セールスポイント

乾雌穂重割合が高く、推定TDN収量が多い中生品種である。

来歴 本品種は、米国パイオニア社が育成した単交配(デント×デント、構成系統は不明)の一代雑種である。2008年にホクレン農業協同組合連合会が導入し、同年に予備検定試験を行った。2010年より各種の試験を行い、2013年に優良品種となった。2008年OECD登録されている。

特性概要

1. 絹糸抽出期および雄穂開花期は「36B08」と同日で、

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1 極不良 ～ 9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 折 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
上 川 農 試	P 9 4 0 0	7.6	7.29	8.3	黄初～中	2359	1689	104	33.6	71.8	2010～2012
	3 6 B 0 8	7.4	7.29	30.2	黄初～中	2297	1620	100	31.3	70.6	
北 農 研 セ ン タ ー	P 9 4 0 0	5.7	7.28	10.6	黄 中	2139	1564	108	30.6	73.1	2010～2012
	3 6 B 0 8	5.8	7.29	16.9	黄初～中	2007	1442	100	28.7	71.9	

参照 1) 北海道農政部編、平成25年普及奨励ならびに指導参考事項、22-23 (2013)

③5) **P1543** (系統名X7H287) 2013年
登録番号：とうもろこし(飼)輸交第63号

セールスポイント

やや多収で乾雌穂重割合が高く、ごま葉枯病抵抗性が強い晩生品種である。

来歴 本品種は米国のパイオニア社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。2009年にOECD登録されており、同年、ホクレン農業協同組合連合会が導入し、2010年より「X7H287」の系統名で各種の試験を行い、2013年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「LG3520」並である。収穫時熟度および総体乾物率は「LG3520」並で、熟期は“晩生の

総体乾物率は「36B08」よりやや高い。熟期は“中生の晩”に属する。

2. 耐倒伏性は「36B08」より倒伏個体率がやや低い。
3. 発芽期および初期生育は「36B08」並である。
4. 乾物総重および推定TDN収量は「36B08」より多く、乾雌穂重割合は「36B08」より高い。
5. 稈長および着雌穂高は「36B08」より高い。
6. すず紋病抵抗性は「キタユタカ」より強く「36B08」よりやや弱い。ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」より強く「36B08」並である。収穫時の節間空洞や刈り残し個体の萎凋個体率は「36B08」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は北部を除く道央地域および道南地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

中”に属する。

2. 耐倒伏性は「LG3520」よりやや強い。
3. 発芽期は「LG3520」並、初期生育は「LG3520」よりやや劣る。
4. 乾物総重および推定TDN収量は「LG3520」よりやや多い。乾雌穂重割合は「LG3520」より高く、乾物中推定TDN割合は「LG3520」よりやや高い。
5. 稈長は「LG3520」よりやや低く、着雌穂高は「LG3520」より低い。
6. すず紋病抵抗性は「3540」より強く、「LG3520」よりやや弱い。ごま葉枯病抵抗性は「3540」および「LG3520」より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央中部(上川を除く)、道央南部および道南地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1 極不良 - 9 極良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 折 損 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 海 道 農 研	P 1 5 4 3	5.3	8. 1	4.0	黄 中	2257	1626	103	29.4	72.0	2010～2012
	L G - 3 5 2 0	6.2	8. 1	14.8	黄 中	2226	1573	100	27.9	70.6	
道 南 農 試 (八 雲 町)	P 1 5 4 3	9.0	8. 9	—	黄初—中	2076	1494	108	27.6	72.0	2011
	L G - 3 5 2 0	9.0	8. 9	—	黄 中	1932	1385	100	24.5	71.7	
ホ ク レ ン (千 歳 市)	P 1 5 4 3	7.5	8. 7	—	黄 初	1704	1264	92	28.5	74.2	2012
	L G - 3 5 2 0	8.7	8. 6	—	黄 中	1866	1375	100	28.9	73.7	

参照 1) 北海道農政部編, 平成25年普及奨励ならびに指導参考事項, 24-25 (2013)